



コスモ石油グループ コーポレートレポート2015

# CORPORATE REPORT 2015





**グループ全体でCSR経営を推進し、  
社会から信頼され、  
社会に継続的に貢献できる  
コスモ石油グループをめざします。**

コスモ石油株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員

**森川 桂造**

**コスモ石油グループにおける  
CSR経営と2014年度の振り返り**

コスモ石油グループでは、5ヵ年計画である「第5次連結中期経営計画」の基本方針として、「CSR経営の推進」を掲げています。企業として、収益力向上と持続可能性の追求は必要不可欠ですが、CSR経営は、そのための企業活動の土台となる部分だと考えています。

コスモ石油グループでは、CSR活動方針(2013年度～2017年度)として5つの重点項目を設定し、CSR経営の推進に取り組んでまいりました。詳細はP17以降に報告させていただいておりますが、2014年度の主な取り組みを紹介させていただくと、最重点項目のひとつである「安全管理施策の徹底」は、製油所部門では製油所安全改革委員会が旗振り役を担い、現場主体で課題を抽出し改善を図ってまいりました。私自身も毎月製油所を訪問し、現場の社員と直接対話を重ね経営者としての安全への熱意を伝えるとともに、現場の声を聞き現場の苦勞と工夫を共有してまいりました。また、安全は製造部門だけではなくグループ全体で意識をするものとし、「安全スタンダード」を設定し、グループ一丸で取り組みました。もうひとつの最重点項目

は、「誠実な業務遂行」です。社員のとるべき行動と意識を定めた「コスモ石油グループ企業行動指針」を時代の変化に合わせて、見直しを行いました。行動指針をまとめた冊子を一新し、企業倫理研修会で内容の周知と共有を図っております。また、「人権・人事施策の充実」として、ワークライフバランス推進のために長時間労働の削減および時間あたりの生産性向上に取り組んでいます。2015年度も引き続き、各重点項目のテーマに真摯に取り組み、グループ全体でCSR経営の推進を行っていきます。

**持株会社への移行と、  
ガバナンスの強化**

コスモ石油グループは、2015年10月に持株会社へ移行することとしました。今後も持続的な成長を遂げ、グループ全体を俯瞰して経営資源の最適配分を行うことによる事業単位での競争力強化を図るため、持株会社ならびに資源開発事業会社、供給事業会社、販売事業会社の3つの事業会社を中心とした体制を予定しています。現在、経営資源が集中している石油精製・供給事業を中心に徹底的な合理化・効率化を推進するとともに、資源開発事業、リテール事業、風力発電事業を成長ドライバーと位置づけ、経営

資源のシフトにより「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」として国際的な競争力を高めます。

また、2015年度は日本のコーポレートガバナンスを取り巻く状況が大きく変わる年ですが、コスモ石油グループにおいても、持株会社体制への移行を機に、監査等委員会設置会社に統治形態を変更することとしました。すでにIPIC\*1社より2名の社外取締役を迎えていましたが、2015年度は、さらに他業界からも2名の社外取締役を迎え、多角的な意見を経営に採り入れます。新コード\*2への対応、遵守はもちろんですが、会社の透明性を高めて説明責任を果たすとともに、「攻め」のガバナンスを実現していきます。

\*1 IPIC：International Petroleum Investment Companyの略で、国際石油投資会社のこと。中東産油国UAE（アラブ首長国連邦）第一の首長国・アブダビが全額出資する政府系ファンド。

\*2 新コード：コーポレートガバナンス・コードおよびスチュワードシップ・コード

## ●●● 社会に継続的に貢献できる企業に

コスモ石油グループは、2006年より国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しており、人権・労働基準・環境・腐敗防止など基本原則に則った取り組みを推進しております。この基本原則は、2014年度に刷新を図った「コスモ石油グループ企業行動指針」にも通じており、すべての従業員がとるべき行動と意識として共有しております。コスモ石油グループのもっとも重要な使命は、社会に対して人々の命と生活にかかわるエネルギーを安全・安定的に供給することです。2015年度も、この使命を継続的に果たし、社会から信頼され、社会に貢献できるコスモ石油グループをめざしてまいります。

### 持株会社体制移行について

コスモ石油は、安定的な配当、最適な経営資源配分、柔軟かつ迅速なアライアンス戦略（協業・共同・統合）の実現をめざし、持株会社体制に移行します。

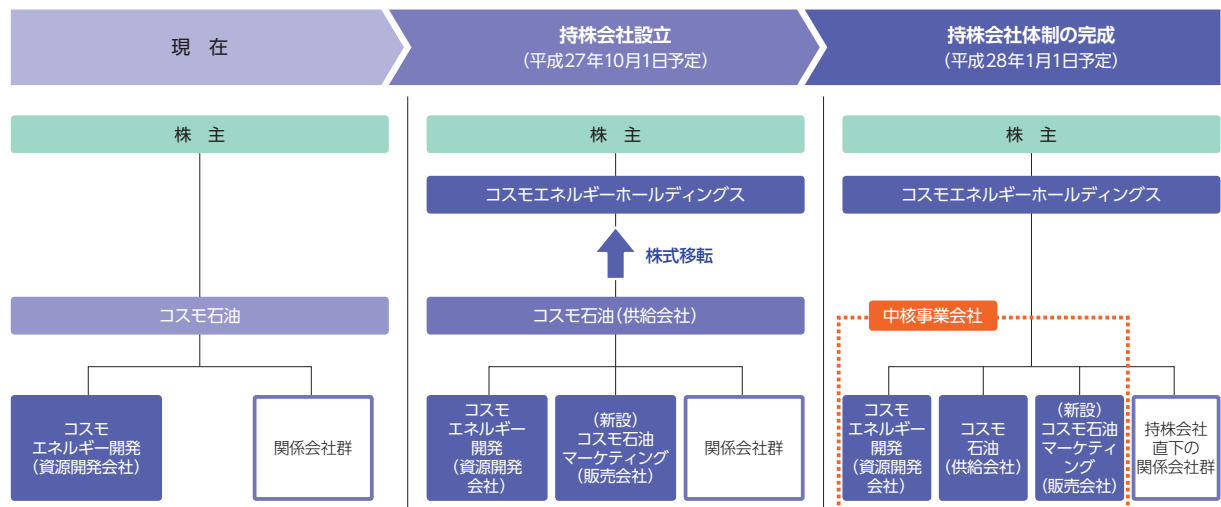
持株会社（コスモエネルギーホールディングス（株））設立時点（平成27年10月1日予定）では、コスモ石油が持株会社

の唯一の直接の子会社となります。その後、平成28年1月1日を予定日として、コスモ石油とともに、コスモエネルギー開発（株）、コスモ石油マーケティング（株）の中核事業会社3社を、持株会社の傘下とする再編を行い、持株会社体制への移行を完了いたします。

#### 持株会社体制へ移行して当社グループの企業価値の最大化へ （単独株式移転の方法による持株会社「コスモエネルギーホールディングス株式会社」の設立）

持株会社体制がめざすもの（目的）

- ① 事業競争力の強化と持株会社の収益安定化
- ② グループ経営強化と経営資源シフトの加速
- ③ 事業ごとのアライアンス推進



# コスモ石油グループの概要

## 会社概要

(2015年3月31日現在)

商号 コスモ石油株式会社  
 本社所在地 〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号  
 発足年月日 1986年(昭和61年)4月1日  
 社員数 1,643名  
 製油所 千葉、四日市、堺  
 支店 札幌、仙台、東京、関東南、名古屋、大阪、広島、高松、福岡  
 油槽所 36カ所(寄託油槽所33カ所を含む)  
 海外の拠点 アブダビ(UAE)、北京(中国)、ドーハ(カタール)、ヒューストン/テキサス州(アメリカ)、ロンドン(イギリス)、シンガポール  
 原油生産量 38,031バレル/日  
 原油処理能力 452,000バレル/日  
 製油所稼働率 2014年度 84%  
 国内SS\*数 3,133カ所(全国シェア約9%)  
 国内セルフSS数 1,031カ所(全国シェア約11%)

\* SS: サービスステーション(給油所)

## 販売状況

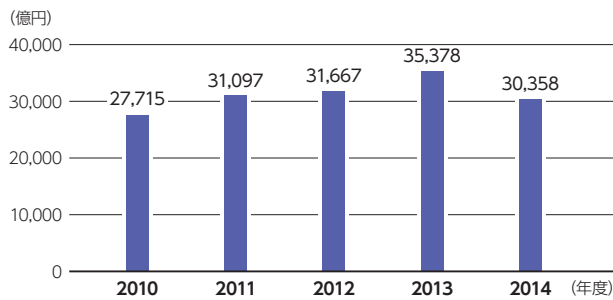
### 石油製品別販売体制

石油製品	国内SS	国内企業*	海外輸出
LPガス	●	●	
ガソリン	●		◆
ナフサ		●	
灯油	●	●	
ジェット燃料		●	◆
ディーゼル燃料	●	●	◆
A重油		●	◆
C重油		●	◆
アスファルト		●	◆

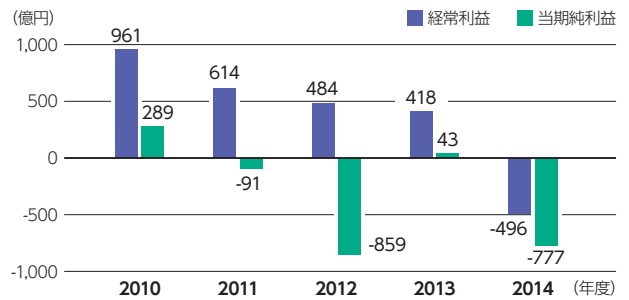
\* 国内企業: 主要電力会社、航空会社ほか

## 連結財務ハイライト

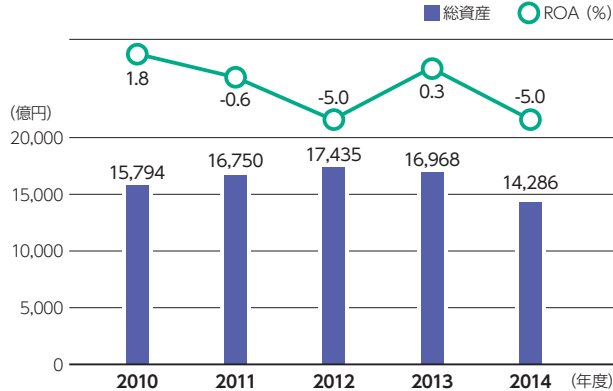
### 売上高



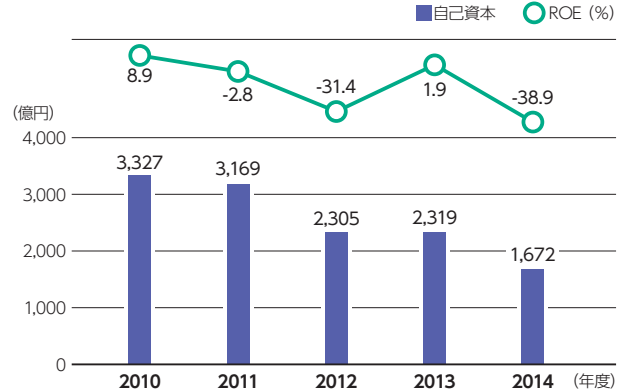
### 経常利益・当期純利益(連結)



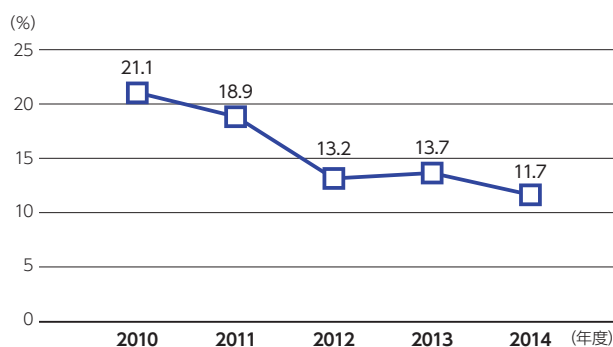
### 総資本/総資本利益率(ROA)



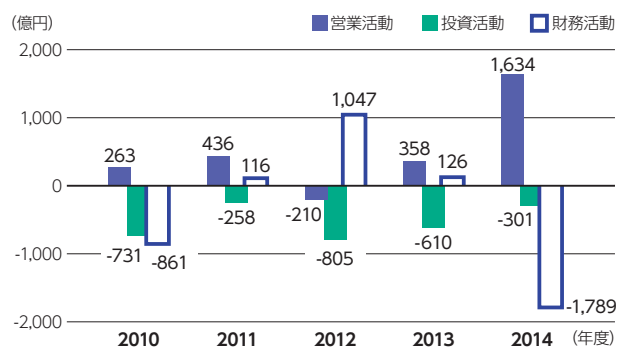
### 自己資本/自己資本利益率(ROE)



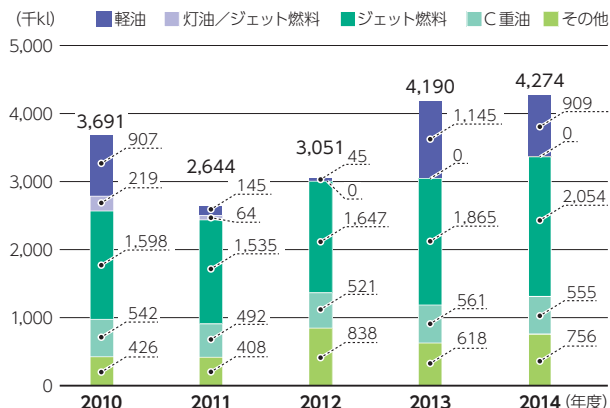
### 自己資本比率



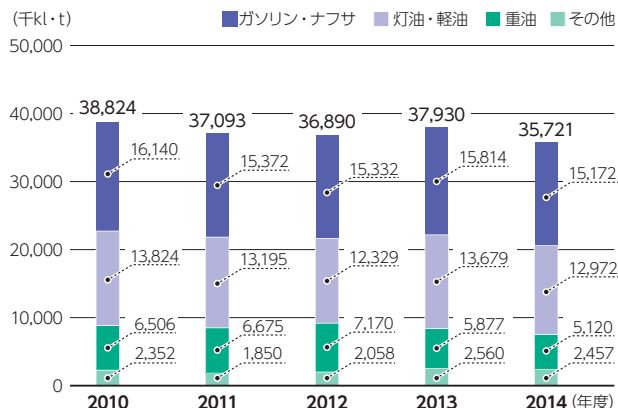
### キャッシュ・フローの推移(連結)



## 輸出数量計



## 販売状況の推移(単体)



# コスモ石油グループ コーポレートレポート2015

## 編集方針

本レポートは、コスモ石油グループの取り組みをステークホルダーの皆様へ理解していただくため、前半は、会社案内としての情報を、後半は、「コスモ石油グループ企業行動指針」および「CSR活動方針(2013年～2017年)」の5つの重点項目に沿ったCSR活動報告を掲載した総合的コミュニケーションツールとして発行しています。

本レポートの編集にあたっては、GRI(Global Reporting Initiative)の「GRIサステナビリティ・レポートガイドライン 2013」を参考にしながら、コスモ石油グループの事業とステークホルダーの皆様にとって重要性の高い事項について重点的に報告しています。環境パフォーマンスの集計については、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしています。

## コーポレートレポートとWeb版

より多くのステークホルダーの皆様へ内容をご理解いただくため、冊子版では読みやすさ・わかりやすさを追求し、詳細なデータはWeb版に掲載しています。Web版は、下記コスモ石油公式サイトにてご確認ください。

CSRサイト <http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/>

## 報告期間

2014年4月1日～2015年3月31日  
(ただし一部2015年度の報告も含んでいます)

## 報告範囲

「CSR活動方針」を共有するコスモ石油グループ会社24社(P5～6で\*のついた会社)が中心ですが、コスモ石油単体のデータあるいは一部の会社のみデータがあり、それらは掲載箇所に脚注で記載しています。なお、2014年度から坂出製油所は坂出物流基地となりました。

## 発行時期

発行日: 2015年8月  
次回発行予定: 2016年9月(前回: 2014年9月、毎年発行)

## 第三者保証の該当箇所

記載情報の信頼性を確保するために、KPMGあずさサステナビリティ(株)による第三者保証を実施しており、該当箇所に☑で表示しています。

## 問い合わせ先

コスモ石油株式会社 リスク統括ユニット CSR統括部

MAIL: [cosmo\\_csr@cosmo-oil.co.jp](mailto:cosmo_csr@cosmo-oil.co.jp)

レポートのご感想やコスモ石油グループのCSR活動へのご意見をお寄せください。

## 目次

トップコミットメント .....	1
コスモ石油グループの概要 .....	3
コスモ石油グループの事業 .....	5
コスモ石油グループのCSR .....	7

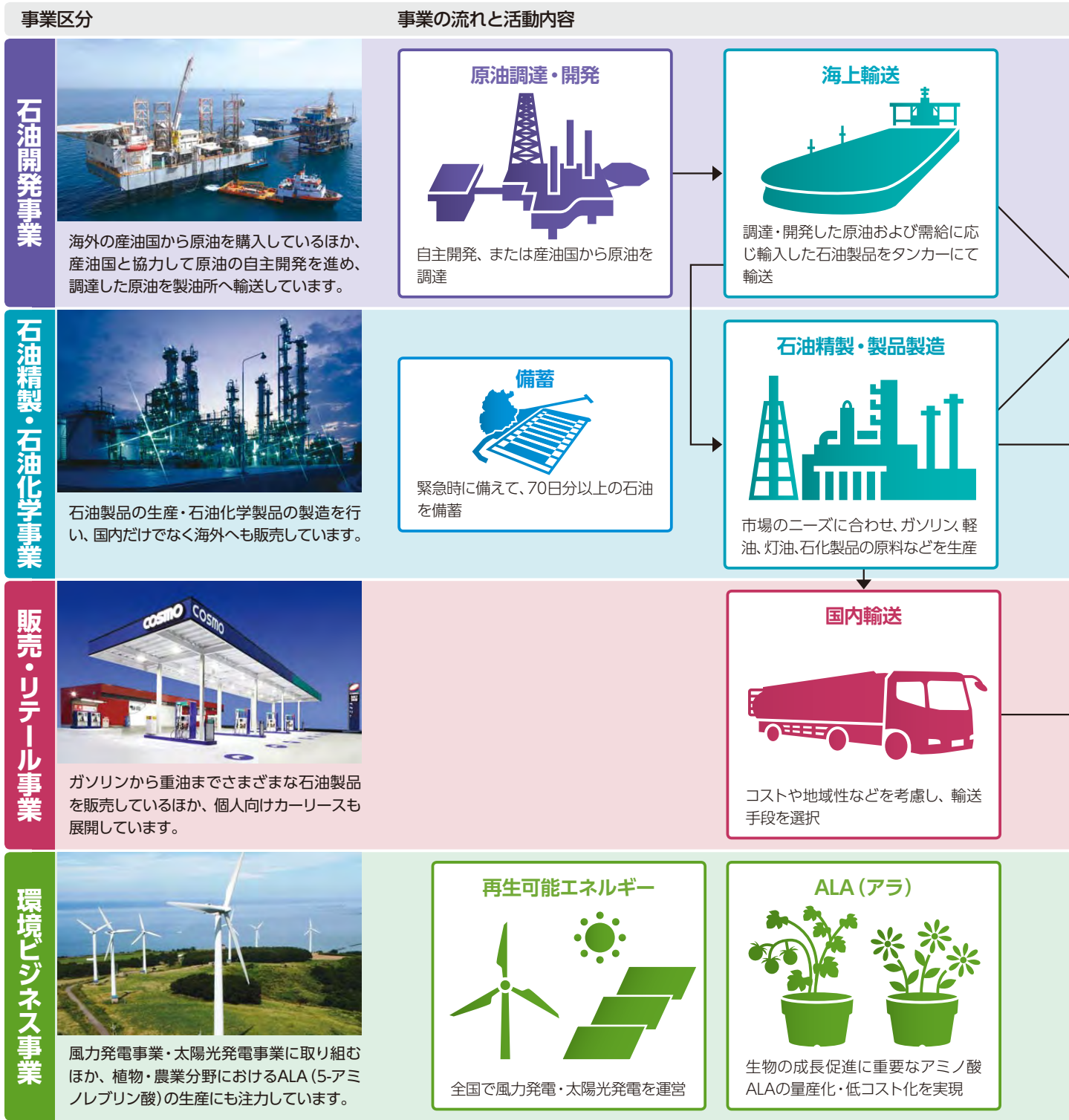
## 特集 コスモ石油グループの中核事業

1 石油開発事業の取り組み .....	9
2 供給事業の取り組み .....	11
3 販売事業の取り組み .....	13
4 再生可能エネルギー事業への取り組み .....	15

## CSR活動報告

重点項目 1	
安全管理施策の徹底 .....	17
ステークホルダーダイアログ .....	19
重点項目 2	
誠実な業務遂行 .....	22
重点項目 3	
人権/人事施策の充実 .....	26
コスモプロジェクト .....	28
重点項目 4	
環境対応策の推進 .....	29
重点項目 5	
グループ内および社会との コミュニケーション活動の推進 .....	32
第三者保証報告 .....	34

# ●●● コスモ石油グループの事業



グループ会社一覧	石油開発事業	石油精製事業	石油化学事業	販売・リテール事業
<b>マークの読み方</b> ◎…連結子会社 ○…持分法適用会社 *…「CSR活動方針」を共有する24社 2015年6月30日現在	<b>原油調達・開発</b> ◎コスモエネルギー開発(株)* ◎コスモアブダビエネルギー開発(株) ◎アブダビ石油(株)* ◎カタール石油開発(株)* ◎コスモアシュモア石油(株) ○合同石油開発(株)	<b>石油精製・製品製造</b> コスモ石油(株)* ◎コスモ石油ルブリカンツ(株)*	<b>石油化学製品製造</b> ◎コスモ松山石油(株)* ◎CMアロマ(株) ○丸善石油化学(株) ○Hyundai Cosmo Petrochemical Co.,Ltd.	<b>国内輸送</b> ○東西オイルターミナル(株) ◎北斗興業(株)* ◎コスモ海運(株)* ◎コスモ運(株)* ◎コスモベトロサービス(株)* ◎コスモテクノ四日市(株)* ◎関西コスモ物流(株)* ◎坂出コスモ興産(株)* ○千葉コスモ海運(株) ○コスモルプサービス(株)
	<b>原油・石油製品の輸出入</b> ◎英国コスモ石油(株)* ◎コスモオイルインターナショナル(株)* ◎米国コスモ石油(株)*	<b>備蓄</b> ○沖縄石油基地(株)		

明日を見すえた取り組み2015

石油製品の輸出



海外での需要に応じ、石油製品を輸出

石油化学製品製造

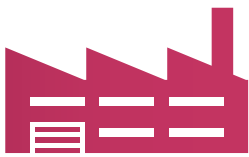


国内外で生産体制を整備し、需要増加に対応

物流・販売

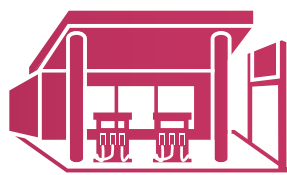
お客様・一般家庭・産業など

国内販売



さまざまな産業の需要家、特約店などのお客様のニーズに合わせ、石油製品を供給

カーライフ事業



SS販売では地域特性を重視し、お客様のカーライフをサポート

研究開発



製造技術の高度化研究、環境配慮製品の開発

原油開発・生産の拡大

- 産油国とのアライアンス強化
  - アブダビ新鉱区「ヘイル油田」早期生産開始
  - 継続的な有望鉱区の発掘
- ➡ P9～10

安全操業・安全供給の実現

- 操業マネジメントシステムの構築
- ➡ P11
- 供給体制のさらなる効率化
- ➡ P12
- 安全管理体制の強化
- ➡ P17～18

お客様との関係強化

- リテールビジネスの拡大
  - 異業種提携（イオングループ）
  - 直売による需要開拓
- ➡ P13～14

再生可能エネルギー事業の強化

- 風力発電事業の収益拡大
- ➡ P15～16
- メガソーラーの本格稼働
- ➡ P16

ALA事業の拡大

- 医療、化粧品、健康食品などの分野への用途拡大

国内販売

- ◎コスモ石油販売(株)\*
- ◎総合エネルギー(株)\*
- ◎コスモプロパティサービス(株)
- (株)長田野ガスセンター
- ジクシス(株)
- 桜橋産業(株)
- トコスカーサポート(株)
- コスモリフォーム(株)
- (株)アムテックス
- (株)ロード資材

環境ビジネス事業

風力発電

- ◎エコ・パワー(株)\*
  - ◎銚子ウィンドファーム(株)
  - ◎段ヶ峰ウィンドファーム(株)
  - ◎伊方エコ・パーク(株)
  - ◎(株)稚内ウインドパワー
  - ◎(株)たちかわ風力発電研究所
  - ◎エコ・ワールドくずまき風力発電(株)
  - ◎(株)秋田ウインドパワー研究所
  - (株)五島岐宿風力発電研究所
- ALA(アラ)
- ◎コスモALA(株)\*

その他事業

- ◎コスモエンジニアリング(株)\*
- ◎(株)コスモトレードアンドサービス\*
- ◎コスモビジネスアンシエイツ(株)\*
- ◎(株)コスモコンピュータセンター\*
- コスモ海洋牧場(株)
- トコスエンタプライズ(株)
- 北ガスフレアスト函館南(株)
- (株)宣信社
- ◎SUMMIT TRADING CO.L.L.C.
- ◎MUSASHI INTERNATIONAL.W.L.L.
- アブダビ興産(株)
- A.D.MARINE.INC
- ◎COSMO OIL EUROPE B.V.

コスモ石油グループは経営理念を実現するために、「コスモ石油グループ企業行動指針」にもとづいて、連結中期経営計画とCSR活動方針を表裏一体とするCSR経営を進めるとともに、社員一人ひとりが誠実にCSR活動に取り組んでいます。

## コスモ石油グループの経営理念

わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けて持続的発展をめざします。

## コスモ石油グループ企業行動指針

- 第1章 安全で事故のない企業グループであり続けます
- 第2章 お客様の信頼と満足に応えます
- 第3章 人を大切にします
- 第4章 地球環境を大切にします
- 第5章 社会とのコミュニケーションを大切にします
- 第6章 誠実な企業グループであり続けます

## 第5次連結中期経営計画

(2013年度～2017年度)

「第5次連結中期経営計画」では、石油精製販売事業における収益力の強化を中心として、財務体質の改善を果たし、早期の復配を実現します。

さらに、長期的には「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」として、社会に貢献できる企業をめざしています。

### 基本方針

成長の基礎を固め、当社グループの盤石な経営基盤を確立していく5年間

- 石油精製販売事業における収益力の回復
- 前中期経営計画で実施した戦略投資の確実な回収
- IPIC・HDO\*とのアライアンス強化
- CSR経営の推進



長期的に目指すべき姿は、  
「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」



顧客へのメッセージスローガン

**ココロも満タンに**

社会へのメッセージスローガン

**ずっと地球で暮らそう。**

**調和と共生**

地球環境との調和と共生  
エネルギーと社会の調和と共生  
企業と社会の調和と共生

**未来価値の  
創造**

顧客第一の価値創造  
個の多様な発想による価値創造  
組織知の発揮による価値創造

**CSR活動方針**

**～ ココロと安全の「満タン活動」～**

(2013年度～2017年度)

コスモ石油グループは、経営計画とCSR活動方針を表裏一体としてCSR経営を進めるとともに、グループ社員一人ひとりが誠実に業務を遂行し、社会からの期待に応えることで経営理念の実現につながると考えています。

**活動テーマ**

- 「安全」と「誠実」(信頼回復)
- 「共有」と「自発性」(水平展開と定着)

2017年度のゴールビジョン  
信頼に応え、継続して社会に貢献できる  
コスモ石油グループになる

**CSR活動方針の取り組み**

2013年度～2017年度

重点項目	活動テーマ
①安全管理施策の徹底 活動報告 ➡ P17	製油所安全改革委員会による製油所の安全管理活動の推進
	全社安全推進委員会によるグループ全社の安全管理活動の推進
②誠実な業務遂行 活動報告 ➡ P22	CSR、コンプライアンス徹底・企業行動指針の理解度向上
	危機管理体制の再構築
	品質保証委員会によるグループ全社の品質管理 お客様満足の追求
③人権/人事施策の充実 活動報告 ➡ P26	業務の効率化と労働時間の適正管理
	ワーク・ライフ・バランスの取り組み
	多様性を尊重した職場づくり(ダイバーシティ)
	健康管理への取り組み パワハラ・セクハラ撲滅
④環境対応策の推進 活動報告 ➡ P29	地球温暖化防止への対応
	環境負荷の低減
	環境貢献活動の推進
⑤グループ内および社会とのコミュニケーション活動の推進 活動報告 ➡ P32	地域社会への貢献活動
	社会貢献活動
	グループ内外のコミュニケーション活動

\* HDO(ヒュンダイオイルバンク株式会社)：韓国の石油精製・販売会社。1964年設立。コスモ石油とは2009年に合併会社を設立し、パラキシレン事業を展開。

産油国との信頼関係を基盤に、  
石油開発を拡大し安定供給につなげます。

## 産油国アブダビと築いた信頼関係

コスモ石油は1967年、アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国での利権を獲得し「アブダビ石油株式会社\*」を設立し、以来、40年以上にわたり同国内の3油田で生産を行い日本に向けて出荷してきました。その間、アブダビ石油では石油行政を担うアブダビ国営石油と緊密な協力関係を構築するとともに、アブダビ首長国を中心に、人材派遣や技術提供をはじめ、文化交流、UAEの若年層向け日本語教育支援や短期留学プログラムを進めるなど、産油国との友好関係の構築に力を注いできました。こうした活動が認められ、2012年12月に既存3油田の利権を更新した上で、さらに隣接する新鉱区ヘイル油田の利権を取得することができました。コスモ石油グループは産油国との信頼関係を基盤にさらに開発事業を進め、エネルギーの安定供給に寄与していきます。

\* コスモ石油グループ出資比率 63%



リグ (海洋坑井掘削装置)  
坑井の掘削や補修などを行う特殊装置



CFP (海上集油基地)

各生産井から生産された原油を集めムバラス島へ送る中間基地



## 新鉱区「ヘイル油田」開発が進捗

「ヘイル油田」は、油田から産出する原油の集積・出荷基地であるムバラス島の南に位置し、既存3油田と同程度の日量約2万バレルの生産が見込まれています。2014年の着手以来、順調に開発が進み、現在は2016年度中の生産開始をめざし、リグ(坑井掘削装置)を通すための水路浚渫や人工島の造成を進めています。

### 「ヘイル油田」開発スケジュール

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
探 鉱	3D震探	データ解析		
開 発	基本設計	水路浚渫・人工島建設	地表設備建設	
		掘削準備	掘削開始	生産開始

## 持続的な生産量拡大に向けた開発

コスモ石油グループのカタール石油開発株式会社が2006年から生産を開始しているカタール国沖合の油田では、日量約9,000バレルの生産をめざし、増産のための追加開発を進めています。

(2015年10月1日新任予定)



コスモ石油グループにおいて、収益面で貢献度の高い上流事業である石油開発を今後も維持、発展させることが私たちの使命であり、それを実現する道筋の中核は、権益の更新を終えたアブダビ石油です。同社が新たに獲得したヘイル油田の生産を予定通りに開始し、2020年頃には既存の油田を含めて、同社の生産量を現在の倍の日量4万バレルにする。また、ほかの2操業会社（合同石油開発、カタール石油開発）の利権は2018年と2022年にそれぞれ期限を迎えますが、維持する方向で検討、対応していきます。さらには将来を見ずえて、2014年に戦略的提携関係を結んだCEPSAと連携し、アブダビを含め新たな上流利権、資産の獲得も模索していきます。

### 新たな権益取得に向けて関係を強化

コスモ石油は、2014年1月、同じIPICグループでスペインを代表する総合石油会社CEPSA\*（セプサ）と戦略的包括提携合意契約を締結し、石油関連事業において共同で事業機会の発掘にあたるなど、事業拡大に注力していきます。またさらに、2014年11月には、アブダビ石油の持株会社として新設した「コスモアブダビエネルギー開発株式会社」の株式の一部をCEPSAに譲渡しました。今後、両社は新会社の運営を通じて、アブダビ石油でのプロジェクト推進強化および新規権益の獲得などをめざしていきます。

\* IPIC出資比率 100%



CEPSA調印式



アラブ首長国連邦  
アブダビ首長国

### アブダビの環境保全に貢献

アブダビ石油では環境保全にも力を入れ、開発事業においては、油田から原油生産に伴って出る随伴ガスを地中に再圧入するプロジェクトを進め、2001年には3油田のゼロガスフレアリング化\*1を達成。大気汚染の防止と温室効果ガスの削減に貢献しています。また、マングローブの植林をはじめ、生活排水を浄化処理して植栽に散水するなど、不毛だったムバラス島の緑化に積極的に取り組んできました。こうした長年にわたる活動が認められ、2014年度「ADNOC HSE AWARD\*2」HSE Performance賞を受賞しました。

- \* 1 フレアリングとは随伴ガスを焼却処理すること
- \* 2 アブダビ国営石油会社（ADNOC）による「健康・安全・環境」活動に対する表彰制度



アブダビ石油が植林したマングローブ



HSE Performance賞受賞式典

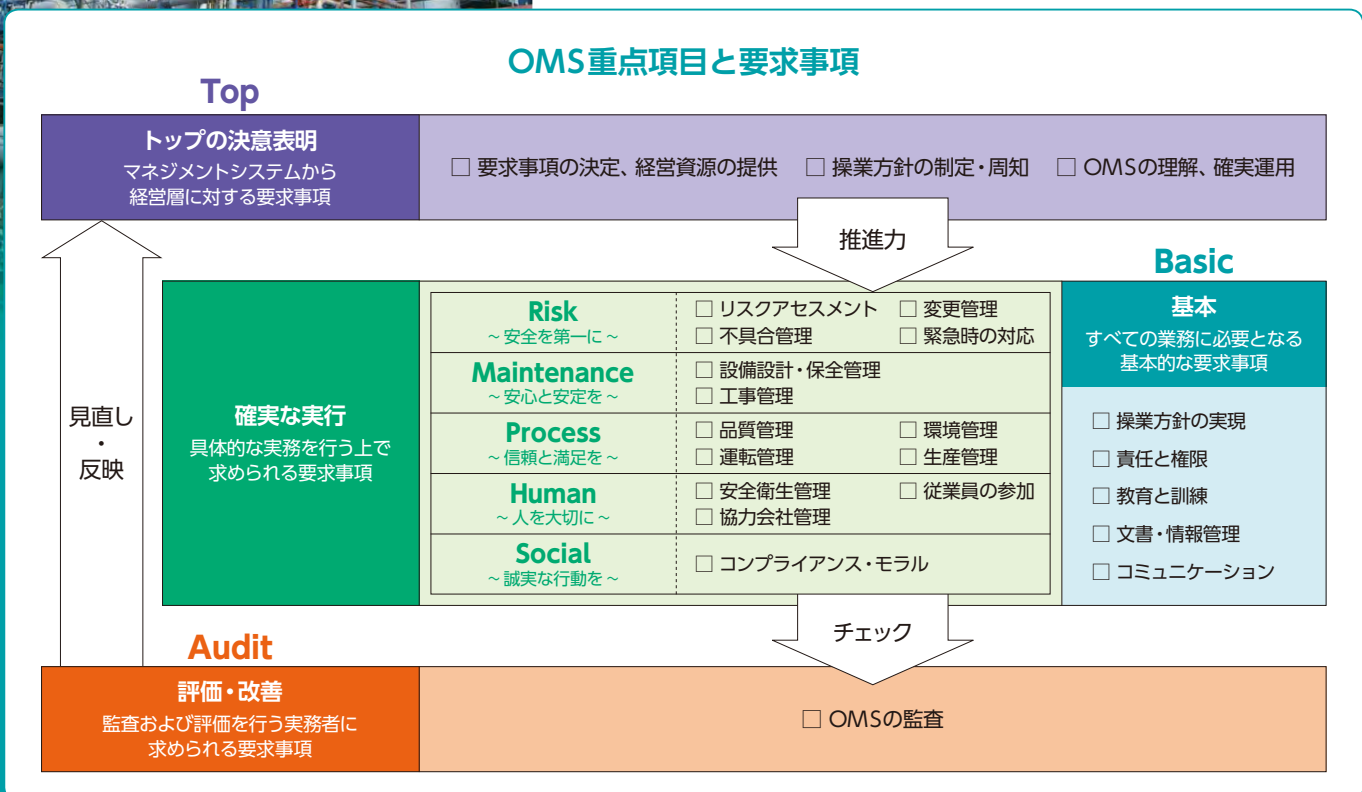
操業マネジメントシステムを確立し、  
世界水準以上の安全操業・安定供給を実現します。



### 「操業マネジメントシステム」の構築

コスモ石油グループ製油所部門は、2006年から「チェンジ21活動」を推進し不安全不具合の撲滅に取り組み、2013年には「製油所安全改革委員会」を立ち上げ、同委員会を軸に、製油所の安全施策に関するPDCAをしっかりと回してきました。

そしてさらに千葉製油所と東燃ゼネラル石油(株)千葉工場との共同事業の計画始動を機に、マネジメントの体制とシステムを全面的に見直し、全社統一のマネジメントシステム「操業マネジメントシステム(OMS)」を2016年1月から運用開始すべく、準備を進めています。OMSは、安全操業・安定供給の実現に不可欠な重要項目として、23の要求事項で構成される取り組み方針を定め、それを基に本社と製油所がそれぞれの取り組みと連携を強化する仕組みです。コスモ石油グループはOMSを継続的に運用強化していくことで、世界水準以上の安全操業・安定供給の実現をめざしていきます。





コスモ石油は石油精製を事業の中心として研究開発、原油調達、石油化学、潤滑油、海外製品トレーディング等幅広いビジネス基盤を有し、独自性のあるビジネスを展開しています。石油精製は資本集約型産業と言われますが、国内外の社会、経済環境の変化が激しさを増す時代においては、社員の創造力と新しい取り組みへの意欲こそが最大のリソースとなります。コスモ石油は石油産業の構造変化をリードし、顧客のニーズとステークホルダーの期待に応える企業へとさらに進化すべく、世界水準以上の安全操業・安定供給を実現し、他社との地域ごとと事業ごとの連携にも積極的に取り組みます。そして幅広い事業分野での成長可能性を追求するため、全社員の英知と努力を結集してまいります。

### 3大消費地に隣接したコスモ石油グループの製油所

#### 堺製油所 (大阪府堺市西区築港新町)

1968年10月操業  
大消費地京阪神への供給基地で、関西国際空港、神戸空港へのジェット燃料も供給。また、最新鋭の重質油分解装置を有し、環境にやさしい生産に努める。



#### 四日市製油所 (三重県四日市市大脇町)

1943年7月操業  
中部、北陸、近畿地方へエネルギーを供給するほか、2011年にミックスキシレン蒸留装置を建設し、海外向けの石油化学製品事業も展開。



#### 千葉製油所 (千葉県市原市五井海岸)

1963年2月操業  
原油処理量22万バレル(1日)でコスモ石油最大。  
日本でもトップクラスで、首都圏を含む東日本全域への安定供給基地。

### 事業提携で国際競争力を持つ製油所へ

コスモ石油と東燃ゼネラル石油グループの極東石油工業は、2015年1月7日、両社の千葉製油所の統合を目的とする共同事業会社「京葉精製共同事業」を設立し、共同事業を開始しました。今後、両製油所間にパイプラインを敷設し、完成後は精製設備を一元化します。

また、コスモ石油と昭和シェル石油グループの昭和四日市石油は、両社の四日市製油所の事業提携を2017年3月から開始し、設備の最適化を通じて両社の競争力強化を図ることで合意しました。

事業提携によるシナジーを創出することで、国際競争力を強化していきます。

### 原油油種多様化への取り組み

日本は原油調達に関しほぼ全量を輸入に頼っており、そのほとんどを中東およびアジアから調達してきました。一方で、米国でのシェール革命の影響やアジアの新興国を中心とした石油需要増加によって、世界規模で原油の流れに変化が起きています。

このような背景から、コスモ石油グループでは、エネルギーの安定供給に向けて中東で石油開発を進めるとともに、調達原油の多様化に積極的に取り組んでいます。そうすることで、日々大きく変動するオイルマーケットから、割安な原油を調達する機会を拡げることになります。これによって製油所の競争力向上に大きく貢献すると同時に、これまで以上に安定的な調達が可能となると考えています。

最近のコスモ石油の実績としては、アメリカ・ロシア・メキシコをはじめカザフスタンや西アフリカ諸国などこれまでにない多様な国からの調達を行っています。



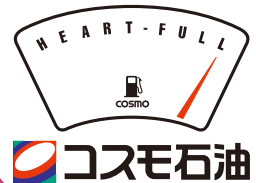
コスモ石油は2014年10月、アメリカからシェール由来のコンデンセートを日本企業で初めて輸入し、油種の多様化も実現しました。コンデンセート(左)は、ガス田から液体分として採取される原油の一種で、超軽質で粘度が低いため泡立ちます。

あらゆるシーンで“ココロも満タンに”を、  
実現するための取り組みを進めています。

## コスモビークルビジョン“ココロも満タンに”宣言

コスモビークルビジョンは変革の核となるSSを支援するプログラムで、  
「顧客の創造」「お客様との関係性強化」「車両販売への積極的な取り組み」の  
3つを軸にお客様に新たな価値を提供することで、  
「カーライフ価値提供業」の実現をめざしています。

ココロも満タンに



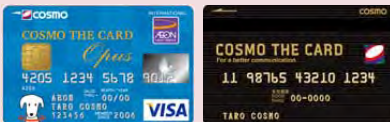
コスモ石油

### 変革を実現するための3つの施策

### ▶ 2015年度の展開

#### 顧客の創造

コスモ・ザ・カード会員数  
**431万件**



コスモ・ザ・カードや法人向けコーポレートカードの発券によるお客様の固定化などこれまでの施策の強化に加え、イオングループとの連携を強めています。

#### イオングループとの新たな提携の推進・強化

イオングループとの新たな提携として、イオンネット会員からの送客をはじめ、コスモ・ザ・カードオーパス会員へのイオンお客様感謝DAYの実施、ミニストップとの新たな提携(WAON決済の導入など)を推進し、イオングループからの送客を強化します。



#### お客様との関係性強化

ビークルライフ会員数  
**20万件突破**



カーライフを「安心・便利・お得・楽しい」に

**コスモビークルライフ**

会員専用サイトから、給油価格の確認、クーポンの取得、メンテナンススケジュールの確認ができ、ポイントも貯まり、お客様との関係性の強化につながります。

「コスモビークルライフ」は、コスモ・ザ・カード会員向けのインターネットサイトです。会

#### 「ビークルライフアプリ」により効果を最大化

スマートフォン向けアプリ「ビークルライフアプリ」を新開発。給油価格の確認やクーポンの発行に加え、ゲームでポイントが貯まる新機能を搭載。いつでもどこでも利用できるアプリにより、ビークルライフの効果を大幅に向上します。



#### 車両販売への積極的な取り組み

累計契約台数  
**2万台突破**



「コスモスマートビークル」は、コスモ石油独自の個人向けカーリースを核とした車両販売のブランドです。月々定額でお支払いいただく車両価格には、車検、税金、メンテナンスなどの諸費用がすべて含まれ、ガソリン代や洗車代もお得に。新しいカーライフマーケットを創出します。

#### 「スマートビークルショップ」を全国展開

自動車販売の新しいカタチ「スマートビークルショップ」を全国で展開します。「カーライフの相談窓口」をコンセプト



に、車両販売からメンテナンス、保険、売却までカーライフサービスをワンストップで提供します。



コスモ石油マーケティングは、コスモグループのガソリンから重油まで販売全般を網羅し、サービスステーション(SS)利用のお客様をはじめ、電力・鉄鋼・航空会社など産業用の需要家様とのインターフェイス、つまり“ココロも満タンに”のコスモ・ブランドを担う会社です。特にSSを通じたマーケティングではお客様へのカーライフ価値提供業を主眼に、燃料油販売だけに頼らない36兆円ある車関連市場全体を取り込む「コスモビークルビジョン」の実現をめざします。

コスモ石油では「新たな価値」を提供するためのサービスステーションを拡充していくことに加え、広く産業を支える燃料の供給にも貢献し、暮らしのあらゆるシーンでさまざまなニーズに応えていきます。

## 大型旗艦店舗“S&CCSイオンモール木更津”オープン



コスモ石油は、2014年10月18日、国内最大級のイオンモール木更津のオープンに合わせて、同モールの敷地内に店舗と給油所、整備工場からなる次世代型サービスステーション\*の1号店「セルフ&カーケアステーション(S&CCS)イオンモール木更津」をオープンしました。S&CCSイオンモール木更津では、ショッピングモール内に出店している強みを活かした「時間の上手な使い方」をコンセプトに、「コスモスマートビークル」を核として車両の販売・リースから、給油、車検、整備、保険手続き、売却まで一貫して提供。コスモビークルビジョン実現を担う旗艦店舗として、イオングループと連携しながら、お客様にカーライフの新しい価値を提案していきます。

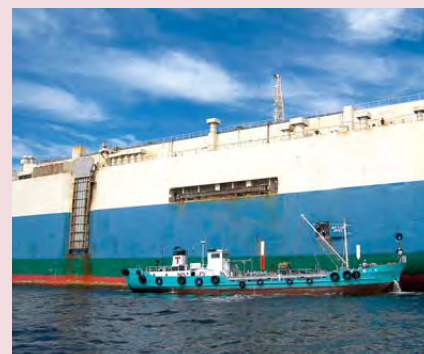
\*次世代型サービスステーション：給油設備に加え、お客様のカーライフにかかわるすべてのサービスを一貫提供できる設備や、次世代エネルギーへの取り組みとしてソーラーパネル・EV充電器を備え、また、災害時の対策として可搬式計量機・自家発電機・衛星電話も設備しているSS。

## 暮らしを支え産業の発展に貢献

コスモ石油の産業燃料部は、工場用のボイラー燃料や発電用燃料をはじめ、航空機、船舶、トラック、バス向けといった輸送用燃料等の供給を担っています。このように産業燃料部のお客様が使用される燃料油の用途は多種多様であり、また、お客様の機器の要求性状により、品質面で個別にご要望をいただくケースもあります。産業燃料部はお客様ごとに異なるさまざまなニーズでできる限りお応えし、安定的かつ高品質な燃料油の供給を通じて、日本の暮らしを支え、産業の発展に貢献していきたいと考えています。



航空機の主翼への給油



大型船舶への洋上補油(手前が給油船)

風力発電などの電力事業を積極的に拡大し、  
クリーンなエネルギーの供給に努めています。

資源の枯渇、エネルギーの安定供給、地球温暖化防止は、これからの社会の大きな課題です。  
コスモ石油は、総合エネルギー企業として、環境負荷のない純国産のエネルギー源として期待される、  
風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギー事業を積極的に展開し、  
社会課題の解決に貢献していきます。



## 新規ウィンドファームが稼働

コスモ石油グループは、1997年に保守・運用をともに担う日本で最初の風力発電専門企業として誕生し、2010年にグループの一員となったエコ・パワー（株）を中核に風力発電事業を展開しています。エコ・パワーはグループ化以来、風車の稼働率向上に努め電力の安定供給を図るとともに、新たな大規模風力発電所（ウィンドファーム）の建設に着手。2014年11月には、コスモ石油グループとなって初めて「広川・日高川ウィンドファーム」が完成し営業運転を開始しました。

広川・日高川ウィンドファームは、和歌山県の広川町と日高川町にまたがる白馬山脈の尾根部に位置し、計画に際しては環境アセスメントにより、尾根生態系への影響を把握し対策を行うとともに、丁寧な説明で地域住民の方々の理解を得るように努めました。エコ・パワーはこれからも風力発電によるクリーンエネルギーの供給を通して、循環型社会の実現に寄与していきます。

### 広川・日高川ウィンドファーム

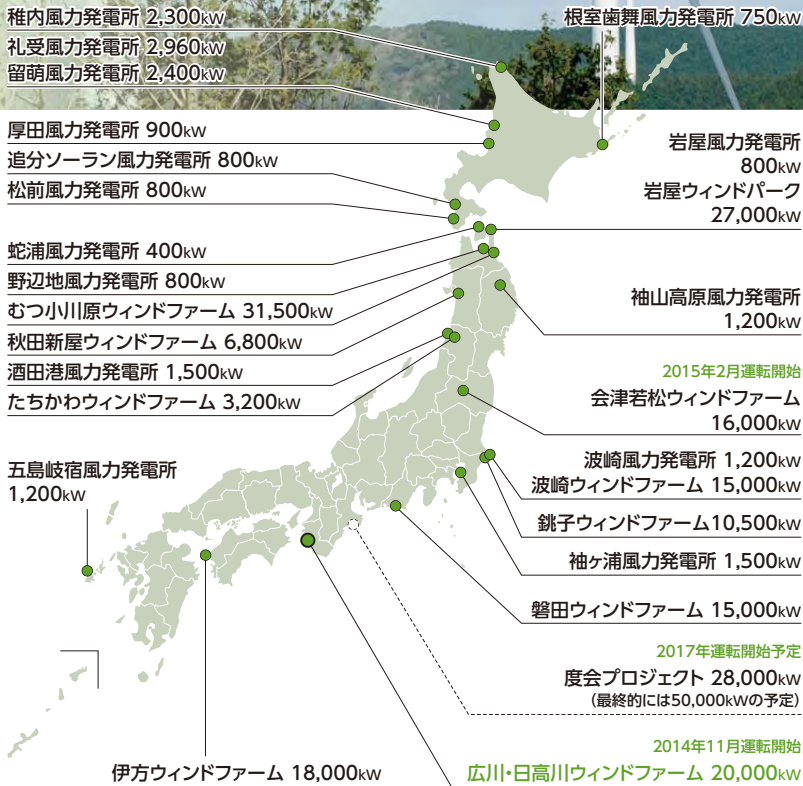
事業規模	2,000 × 10基 kW級風車
CO <sub>2</sub> 削減量	約 19,000 t-CO <sub>2</sub> /年
年間発電量	約 11,000 世帯分 年間使用量相当
原油削減効果	約 12,000 kl/年 (ドラム缶約 6万本)





## エコ・パワー風力発電所一覧

総発電容量 182,510kW 発電機総数 145基



CSDソーラー日立太陽光発電所

## メガソーラーが本格的に稼働

コスモ石油は2013年3月、昭和シェル石油、日本政策投資銀行と共同でCSDソーラー合同会社を設立し、大規模太陽光発電（メガソーラー）事業に本格的に参入しました。2014年にはCSDソーラー日立太陽光発電所をはじめとして5カ所のメガソーラーが、2015年6月にはCSDソーラー霞太陽光発電所が運転を開始するなど本格的に売電事業を推進しています。今後はさらに2カ所のメガソーラーを建設し、全国8拠点の総発電規模は約24,000kWになる見込みです。

### 主な発電所

2014年6月運転開始・発電容量 384kW  
CSDソーラー日立太陽光発電所（茨城県）

2014年7月運転開始・発電容量 1,229kW  
CSDソーラー徳島太陽光発電所（徳島県）

2014年7月運転開始・発電容量 573kW  
CSDソーラー大分太陽光発電所（大分県）

2014年10月運転開始・発電容量 1,188kW  
CSDソーラー谷山太陽光発電所（鹿児島県）

2014年11月運転開始・発電容量 1,966kW  
CSDソーラー福井太陽光発電所（福井県）

2015年6月運転開始・発電容量 4,608kW  
CSDソーラー霞太陽光発電所（三重県）

## 安全確実な保守で高い利用可能率を維持

廣川・日高川ウィンドファームは2014年11月の営業運転開始から5ヵ月が経過しました。発電も順調で、当社が目標としている利用可能率94%もクリアしています。今回、エコ・パワー初の試みとして、日によって風向や風速が頻繁に変わる日本の風土に対応した国産の発電機を導入しました。現在は発電機メーカーとともにデータを蓄積し、利用可能率のさらなる向上をめざしています。安全な稼働には保守点検は欠かせません。1ヵ月、半年、1年ごとの定期点検を確実に実施していくのはもとより、不慮の事故への対応も重要です。当社は保有するすべての発電機の運用状況をデータベース化しており、いざという時に、安全、確実、そして迅速に対応できる体制を整えています。

これからも利用可能率を高いレベルで維持し、電力の安定供給に努めていきます。

エコ・パワー株式会社  
廣川・日高川ウィンドファーム管理事務所

橋本 善和



# 安全管理施策の徹底

## 安全への取り組み

コスモ石油グループでは、2013年度～2017年度のCSR活動方針の最重点項目のひとつとして「安全管理施策の徹底」を掲げています。中期連結安全計画(2013年度～2017年度)のもと製油所安全改革委員会が製油所の安全管理活動に特化し、全社安全推進委員会はグループ全社の安全管理活動を推進しており、各部門で事故や労働災害の撲滅をめざし、安全操業・安定供給を実現していきます。

## コスモ石油グループの安全管理体制

### 全社安全推進委員会

コスモ石油グループでは、「全社安全推進委員会」を設置し、年に2回の会議を開催し、安全管理活動の充実を図っています。事業所および事業所を統括する本社、関連会社に対し、査察を実施し、安全管理活動の確認・指導を行っています。

### 2014年度 安全環境査察実施リスト

コスモ石油	関係会社
<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉、四日市、堺製油所</li> <li>坂出物流基地</li> <li>函館物流基地</li> <li>本社 供給部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスモ松山石油</li> <li>コスモ石油ルブリカンツ</li> <li>コスモエンジニアリング</li> <li>コスモトレードアンドサービス</li> <li>コスモ陸運</li> <li>エコ・パワー</li> <li>コスモALA</li> </ul>

### 2014年度 労働災害発生件数 ☑

	休業	不休業	合計
コスモ石油	6	16	22
関係会社*	18	64	82

\* 関係会社：コスモ石油ルブリカンツ、コスモ石油販売、コスモトレードアンドサービス、エコ・パワー、コスモエネルギー開発、コスモテクノ四日市、コスモ松山石油、関西コスモ物流、坂出コスモ興産、北斗興業、コスモエンジニアリング、総合エネルギー

### 「安全スタンダードCOSMO」の展開

コスモ石油グループでは、「安全」は製造現場だけではなく、全社員で守るテーマとしています。「安全スタンダードCOSMO」の実践を通じ、それぞれ仕事や職場は違っても、

守るべき共通した意識と行動を持ち、安全で働きやすい職場と文化をつくっていきます。

### 「安全スタンダードCOSMO」

	スローガン	具体的な行動(例)
<b>C</b> Compliance (コンプライアンス)	守るべき決まりを守ろう	法令、社規・社内ルールを遵守します
<b>O</b> Open (オープン)	心を開いて、他人や物に心配りをしよう	社内・社外のすれ違う人に挨拶します
<b>S</b> 5S	安全の基本5Sを実行しよう (整理、整頓、清掃、清潔、しつけ(素直))	机の上に書類を出したまま帰りません
<b>M</b> Maintenance (メンテナンス)	機器もココロもメンテナンスをしよう	備品を大切にし、転倒を防止します 避難経路の障害を撤去します
<b>O</b> Oval (オーバル)	安全意識を、私から周りに広げよう	私から行動し、周囲に呼びかけます 組織、グループ各社が何層にも重なり不安全を正します

## 製油所安全改革委員会

コスモ石油グループでは、経営の最重要項目である製油所の安全・安定操業の強化を図るため、社長を委員長とした「製油所安全改革委員会」を2013年3月に設置しました。委員会では、PDCAマネジメントを着実に実行しています。その結果、各製油所の弱点の抽出につながり、弱点克服を進めることで継続的改善を図っています。

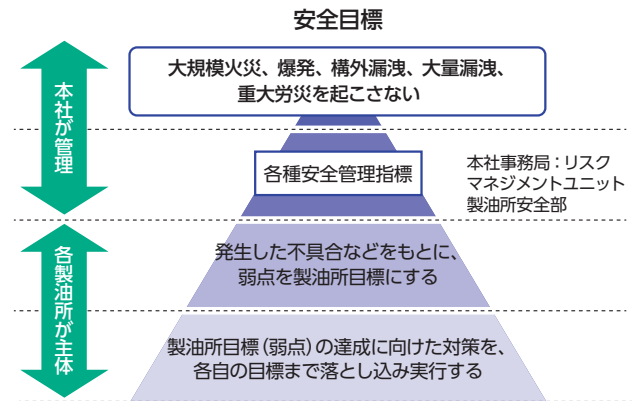
### 不安全不具合の推移

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014
前年度比増減率	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%	▲15%	▲22%

▶PDCAを回す仕組みができたことで、不安全不具合が大きく減少しました。

製油所安全改革委員会活動期間

### 安全のための指標体系



## 安全管理活動の事例紹介

### 製造部門

製油所では運転部門と保全部門が連携して外面腐食点検\*に取り組んでいます。工務課は装置の医者の役割を担っていますが、製油所の配管の総延長は100km以上にもおよびため、まずは目視の点検が重要となります。そこで工務課員の10倍の人数がいる現場に出る機会の多い製造課運転員が中心となって外面腐食点検を実施しています。工務課員が点検の着眼点について視点集を作成し、運転員を対象とした勉強会を行うことで異常発見能力を高めました。発見された異常は、工務課員が速やかに対応することで、2014年度はトラブルを大きく削減することができました。

\* 配管など装置表面のサビを点検すること



外面腐食点検時の着眼点についての勉強会

### 販売部門

消防法が改正されたことにより、40年以上前に埋められた貯蔵用タンクは改修が義務づけられました。社有SSについてはすべて対応を完了しています。特約店のSSについては地下タンクの対応期限を把握し、地下タンク漏洩未然防止のため、販売担当者がサポートを行っています。



## Topics 経営層と現場が直接意見交換

森川社長や製油所担当役員が製油所を訪問し、現場第一線の従業員と膝を交えて対話を行いました。これにより経営層と現場第一線が相互に関心を持ち、今まで以上に「経営層の安全への熱意」と「現場の工夫や苦労」が共有されることで一体感の強化につながっています。対話にこだわり、現場の声に耳を傾ける機会を経営層が積極的に設けることで、グルーパー丸となった安全操業に取り組んでいます。



左が森川社長

## ステークホルダーダイアログ

# 業界・グループ一丸となったBCPで 石油製品供給の使命を果たします

コスモ石油グループでは、BCPを策定し、大規模災害時においても、石油製品の早期供給をめざすよう努めています。さらなる災害対応力向上のため、どのようなことに取り組むべきか。

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社より、有識者である指田氏をお招きし、意見交換をさせていただきました。

## 災害時、石油業界に求められること

**吉持** 危機管理の専門家である指田様より、BCPについていろいろご意見を伺いながら今後の運営に役立てていきたいと考えています。コスモ石油では2005年に内閣府の指示を受け、翌年に地震版BCP、2009年にはインフルエンザ版BCPを作成いたしました。

**指田** BCPはコンピュータ2000年問題、そして2001年の米国同時多発テロを機に世界規模で機運が高まりました。

実際アメリカの企業は、ワールドトレードセンターが倒壊したときにBCPを発動し、ビジネスを継続させた例があります。

**吉持** しかし、当社では東日本大震災で製油所が大きな被害を受けた際、BCPの一部が機能しませんでした。そこで2年の歳月をかけてリスク管理全般を見直し、2013年に新たな地震版BCPを策定しました。

**指田** 確かに御社のBCPは地震を中心につくられています。BCPにはいくつかポイントがありますが、まずは住民の方々を火災や爆発などの被害から守るべく防災対策を徹底することが重要です。実際御社の製油所では耐震補強をはじめとした災害防止に取り組んでおられます。次に供給責任。被災地への燃料供給が滞らないよう、SSの早期営業再開とそれに向けた製油所、油槽所での出荷再開、物流網を確保することです。それ以外にも被災していない地域も含め、何を優先して復旧させるかといった事業の絞り込みや、復旧に必要な時間や回復できるレベルを見通し、収支に影響のないよう目標を立てていくことも重要になってきます。

## 国や社会からの期待に応え責務を果たす

**吉持** 災害時の石油供給連携計画も当社BCPの基幹となっています。これは災害時に政府から出される燃料提供の依頼を、石油連盟や元売各社と協力しながら果たそうというものです。

**指田** 東日本大震災で改めて石油製品供給も含めたライフラインの重要さが明確になりました。大災害が起きたときの相互支援、連携・協力体制を確立することもBCPに必要になってくると思います。

**吉持** 当社は2013年から韓国のヒュンダイオイルバンクと業務提携を開始し、緊急時に製品供給を受けるべく協定を締結しました。そして2015年4月からは当社を含めた石



東京海上日動リスクコンサルティング株式会社  
上席主席研究員 指田 朝久氏

1979年東京海上火災保険株式会社に入社し、情報システム部、リスクマネジメント業務部で地震対策、情報セキュリティ等のコンサルティングに従事。1996年東京海上日動リスクコンサルティング株式会社へ出向。危機管理、情報セキュリティ、事業継続、内部統制のコンサルティングに従事。

内閣府「首都直下地震に係る首都中枢機能確保検討会委員(平成23年度)」、中小企業庁「中小企業事業継続(BCP)」検討会議構成員(平成25年度)」、内閣府「平成25年度事業継続計画の策定促進方策に関する検討会委員(平成25年度)」ほか多数。

油元売各社が指定公共機関となりました。

**指田** 指定公共機関になればタンクローリーなどの緊急車両の事前登録が可能になるほか、中央防災無線の使用も認められるため政府と同レベルでの情報収集が可能になります。そうすると災害復旧や安定供給がより迅速に行えるはずです。一方、このことは一企業といえども国家公務員と同等の位置づけになったととらえるべきで、国民の生活を守る責務をしっかりと果たしていただきたいと思います。

## BCP機能のために不可欠な代替戦略とは

**吉持** 今後はBCPをただの指南書としてではなく、実効性・実現性のあるものにしていくことが必要ではないかと考えています。

**指田** 実際、東日本大震災時に、BCPを策定していながらそれが機能した企業としなかった企業がありました。機能していた企業は定期的な訓練を行っていました。訓練は短時間でも回数を増やしたほうがいいですね。その度に見えてくる課題解決に取り組み、BCPをブラッシュアップさせていくのが理想的です。あとは「代替戦略」を中心に対応していたことです。拠点を被災地の外に一時的に移すか、あるいは提携先の企業から支援を受けるなどしてピンチを乗り越え、その間に被災工場を復旧させるといったやり方です。BCPは一社単独でできるものではなく、業界ぐるみで取り組んでいくべきものだと考えています。社内各所間の連携はもちろん、同業他社との連携も視野に入れた代替戦略をどれだけ立てられるかもBCPの重要なポイントになってくるでしょう。

**吉持** 昨年、首都直下地震を想定した総合訓練を実施し、また製油所や各部門などでも訓練を実施してきました。今後はSSや協力会社などと連携した訓練も実施していく予定です。コスモ石油は10月より、持株会社体制へシフトするためより強固なグループ経営が求められます。引き続きBCPを機能・維持させていくためにも、これまで以上に全社一丸となった取り組みが求められるのだと決意を新たにしました。



コスモ石油リスク統括ユニット CSR統括部  
部長 吉持 敦仁

## Topics 2014年度BCP訓練

2014年6月、防衛省「平成26年度自衛隊統合防災演習(26JXR)」の一環として、自衛隊、資源エネルギー庁、石油連盟による合同の石油供給訓練を堺製油所で実施するとともに、本訓練に合わせ、南海トラフ巨大地震発生を想定した「災害時石油供給連携計画\*」発動時の連携訓練を行いました。



また、2014年9月には、コスモ石油本社で首都直下地震を想定した総合BCP訓練を実施。非公開シナリオにもとづき、(1)BCPマニュアルにもとづいた行動、(2)危機対策本部会議内での情報の一元化と対応方針の審議、(3)他事業所、グループ会社間との情報連携を重点課題として取り組みました。

コスモ石油グループでは、今後もさまざまな部門でBCP訓練を実施し、実行力を高めてまいります。



\* 災害時石油供給連携計画：災害時において石油の安定的な供給を確保するため、石油備蓄法で定められている計画

## 業界と連携した 産業保安に関する取り組み

わが国の石油精製・元売会社による団体である石油連盟では、国内の産業保安に関する自主行動計画を策定しています。コスモ石油では、石油連盟の自主行動計画に参画し、石油会社としての社会的責任を果たしていくための取り組みを策定し、実施しています。

### コスモ石油が実施する取り組み(抜粋)と具体的な活動内容

対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

#### 経営者の産業保安に対するコミットメント

コスモ石油グループ一丸となって、製油所の安全操業・安定供給の使命を果たし、企業としての社会的責任を果たすべく、これまで以上にCSR経営を推進することで社会から信頼されるエネルギー企業をめざしています。2014年度は経営トップの事業所への訪問時に、現場第一線の従業員と膝を交えて懇談するなど、経営者の安全に対する熱意が直接現場へ浸透するよう社内コミュニケーションを拡充しました。

#### 産業保安のための施策の実施計画の策定

##### A. 事故削減に向けた具体策

###### a. 腐食等の設備管理的要因

各事業所の装置の保全担当者が集まり、保全計画の精度を高めるための「装置担当者会議」(2014年度新規)などの取り組みを実施しています。

###### b. ヒューマンエラーの防止・リスクアセスメントの実施状況

非正常作業時の潜在リスク洗い出しを目的とした危険予知ミーティングや作業前の声掛けを実践しています。また、2014年度からは複数の事業所で常駐協力会社も参画したゼロ災運動を展開しています。さらに、コンビナート事業所で頻発した非正常時の重大事故を受け、外部識者を含めたチームで非正常時のリスクアセスメント手法を2014年度に開発し、運用を開始しています。

###### c. 手順書・マニュアル類の整備

2014年度より日々の工事管理に関する標準スケジュールを策定(安全施工サイクル)し、すべての工事において実行することで、工事管理上の不具合が著しく減少しました。

##### B. 教育訓練

危険に対する感性向上のための体感訓練や各種防災訓練の実施や、社内外の事故事例勉強会等を実施しています。2014年度からは指差し呼称体感訓練機を導入し、従業員および協力会社員に体感教育を実施しています。

#### 本社の安全管理活動に関する取り組み

社長を委員長とした製油所安全改革委員会を2013年3月に設立し、同委員会を軸に製油所の安全施策の進捗や評価・見直しなどPDCAマネジメントを着実に実行し、安全操業・安定供給の実現をめざしています。2014年度からはポスター形式の新聞を定期的に発行し、安全の見える化を推進しています。

#### 産業保安に関する目標設定

- 2014年度全社安全方針：『誠実に守るべきことを守る「安全文化」の浸透』
- 2014年度製油所部門安全目標：『大規模火災、爆発、構外漏洩、大量漏洩、重大労災すべての発生件数ゼロを維持する』

#### 目標の達成状況や施策の実施状況についての調査および評価

製油所安全改革委員会で四半期ごとに安全指標の設定や達成状況など確認し、意見交換を実施しています。その結果、各種の安全施策が有効に機能し、2014年度も引き続き製油所部門安全目標を達成しています。

#### 自主保安活動の促進に向けた取り組み 【全社的な安全・法令遵守の再徹底】

全社員を対象とした企業倫理研修をワークショップ形式で継続して実施しています。また、2014年度は全社員を対象としたe-ラーニングによるコンプライアンス学習を実施しました。

#### 自然災害による産業事故の発生防止に向けた取り組み

- 供給網全体の事業継続計画(BCP)マニュアルを整備し、BCP訓練の実施を通じてマニュアルの充実を図るとともに、供給能力の強靱化のため製油所の設備改善を進めています。
- 東日本大震災から得られた教訓および今後想定される巨大地震における被害拡大防止の観点から、高圧ガス設備等の設備について、優先度順に評価を行い、必要に応じた耐震性能強化を計画的に進めています。

# 誠実な業務遂行

## コンプライアンスの推進

### 企業倫理推進体制

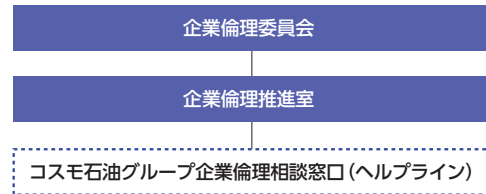
CSR推進委員会の実行組織として、企業倫理に関する基本方針の決定・推進・実施と確認を行う「企業倫理委員会」、推進役となる「企業倫理推進室」を設置しています。

さらに、業務における法令および倫理上の問題を匿名で相談・通報できる仕組みとして、「コスモ石油グループ企業倫理相談窓口」を社内および社外の弁護士事務所を設置しています。相談・通報の内容と対応は、「企業倫理委員会」に報告し、今後の活動に反映しています。また、人事部門内には、セクシュアルハラスメントおよびパワーハラスメントに関する相談窓口を設けています。

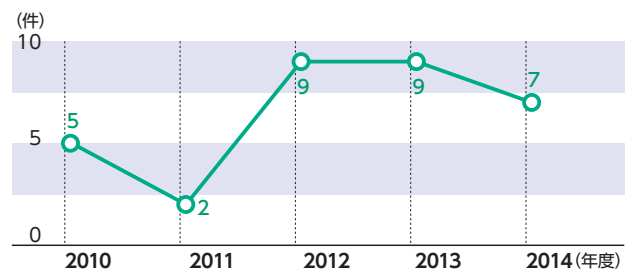
なお、2014年度の重大なコンプライアンス違反は0件\*でした。

\* 重大な製品およびサービスの提供、使用に関する法律や規制の違反、重大な環境法規制に関する違反を含みます。規制値を一時的に超えるなどの軽微な違反についてはWebにて報告しています。

企業倫理推進体制図



相談窓口寄せられた相談件数



### 企業倫理研修会

コスモ石油グループでは、毎年企業倫理研修会を行っています。

2014年度は、改定した「企業行動指針」(P23を参照)への理解を深めるとともに、①「安全第一」②「世の中の倫理・常識ルールの変化」③「他人への配慮(チームワーク)」をテーマに掲げました。

各テーマにおいて、日常業務のなかでありがちな事例を用いて、「自分ならどうするか」グループ討論を行いました。グループ社員からは、安全に対する意識が高まった、自身の行動の振り返りができた、ほかの人の意見が聞けて良かった、と好評価を得られました。



2014年度 企業倫理研修の実績数 ㊦

研修名	テーマ	受講者数	研修時間
新入社員	企業行動指針、CSR活動方針、グループ討論による倫理感の共有、ヘルプラインの紹介	74名*1	3時間
新任ライン長研修	企業行動指針、CSR活動方針における目標達成のためのライン長としての役割	30名	1.5時間
事業所研修	社長メッセージ、収益と倫理観の向上、企業行動指針の改定ポイント、グループ討論による倫理観の共有、意識調査アンケート結果(ハラスメント)のフィードバック	3,609名*2	1.5時間

\*1 新入社員の受講者数は、コスモ石油採用社員のみとなります。

\*2 開催回数は、全32事業所、76回になります。



## 企業行動指針の刷新

2014年9月、「コスモ石油グループ企業行動指針(2003年4月制定)」を改定し、時勢に合わせた新たな項目を追加するとともに、持続的発展が可能な企業であるために必要なことを見直しました。

2011年、2012年の当社千葉製油所での事故を受け、コスモ石油グループの使命である「安全・安定操業」に全社一丸で取り組んでいくため、「安全」の行動指針を第2章から第1章に変更し、さらに「安全で事故のない企業グループであり続けます」と宣言型にしました。

「安全」を礎とし、全6章からなる行動指針をグループ社員一人ひとりが実践することで、ステークホルダーからの信頼と期待に応え、社会的責任を果たしていきます。

また、グループ社員に一人一冊配布している企業行動指針をまとめた冊子も今回リニューアルしました。



### コスモ石油グループ企業行動指針

- 第1章 安全で事故のない企業グループであり続けます
- 第2章 お客様の信頼と満足に応えます
- 第3章 人を大切にします
- 第4章 地球環境を大切にします
- 第5章 社会とのコミュニケーションを大切にします
- 第6章 誠実な企業グループであり続けます

## 社員意識調査アンケートの実施

2014年10月に、コスモ石油グループ社員6,215名を対象としたコンプライアンス意識や、職場風土を確認するためのWebアンケートを実施し、回答率は99.8%でした。

2012年に実施した前回調査から設問を一新し、より実態が把握できるよう直接的な表現にしました。また、回答方式は、個人を特定しないよう配慮しました。集計結果は各社・事業所へ報告し、それぞれ職場環境の改善に役立っています。

### 設問の構成カテゴリ

カテゴリ1	経営理念、中期経営計画などの基本理解	12問
カテゴリ2	コンプライアンス意識、職場の信頼感	9問
カテゴリ3	役員・上司への信頼感、マネジメント行動	11問
カテゴリ4	リスク・不正の可能性	38問
カテゴリ5	仕事・組織の魅力	13問
カテゴリ6	CSR活動方針の実行	8問
合計		91問

## 「パンダ通信」配信

「パンダ通信」は、企業倫理にかかわる見過ごしがちな事象やルールについて、ネズミが問題提起し、パンダが“白黒つけて”解決する社内メールマガジンです。2014年1月から隔月に1回配信し、定期的な啓発を続けることで、グループ社員が日常に潜む問題に気づく感度を高めることをめざしています。





# お客様満足の実現

## 石油製品の信頼確保

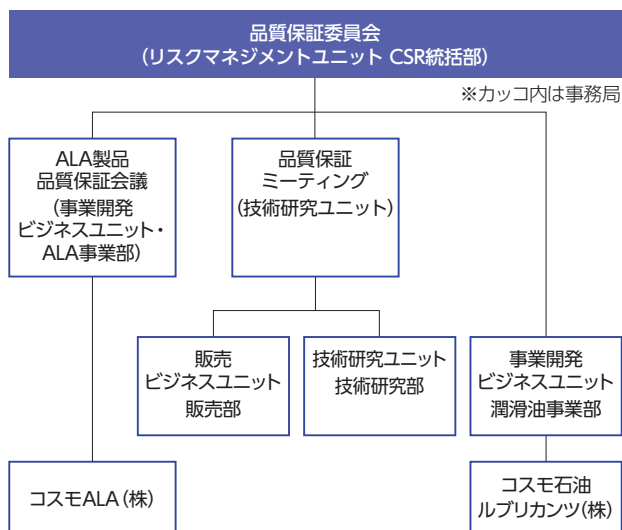
### 品質保証委員会の取り組み

「顧客が要望する品質を満たす安全な商品を経済的かつ安定的に供給する」ことを目的に、「品質保証委員会」を設置し、全社一体となった品質保証体制を確立しています。

2014年度の活動テーマは「安全・安定供給のための施策の徹底(品質不具合の防止)」「製品トラブル発生時の迅速・適切な対応」を掲げて、品質管理活動に取り組みました。

その結果、製油所や油槽所での品質トラブルはほとんどありませんでしたが、荷卸し時の作業ミスによる混油事故が2件発生してしまいました。いずれもお客様のご協力と迅速な対応により大事にはいたりませんでした。このようなトラブルの撲滅に向けて、実際の積荷と積荷データとの確認や、荷卸し時における立会いの徹底など再発防止策を徹底していきます。

### 品質保証委員会の体制



## “ココロも満タンに”宣言

コスモ石油グループでは、SSで迎えるお客様に「心地良さ」「安心感」「信頼感」を実感していただくために、「“ココロも満タンに”宣言」活動に取り組んでいます。

詳細情報: “ココロも満タンに”宣言  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/mantan/>

### “ココロも満タンに”宣言

#### コスモグループの約束

お客様の“ココロも満タンに”を実現させるために、以下の3つをお客様との約束(ブランドプロミス)として取り組みます。

**心地良さ** クリナップの行き届いた店舗で笑顔と挨拶で対応します。

**安心感** 品質の確かな商品とサービスを提供します。

**信頼感** お客様からのご質問に対し、責任を持ってお答えします。

3つの約束診断

カスタマーセンター

コンプライアンスの徹底と環境への配慮

CSR診断

コスモ石油エコカード基金

BCPへの取り組み

### お客様のカーライフ価値提供業

ブランドプロミスである「心地良さ」「安心感」「信頼感」のもと、お客様の多岐にわたるカーライフニーズに応えるべく、燃料油を中心とした石油流通業からトータルカーライフでの価値提供業への変革をめざしています。

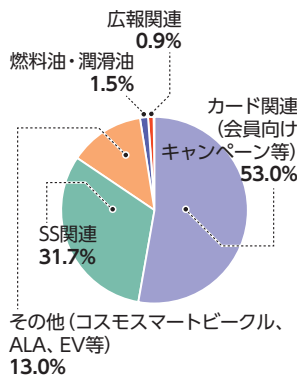
### お客様サポート体制の充実

「コスモ石油カスタマーセンター」を設置し、2010年から電話によるお問い合わせ受付を24時間対応しています。

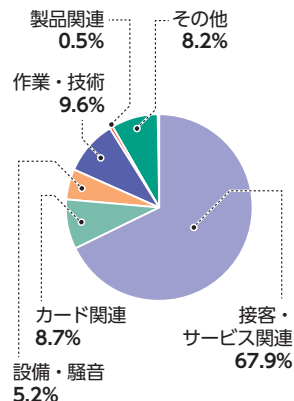
2014年度は、全体で10,875件のお問い合わせをいただき、「ご質問」内容の内訳では、カード関連が半数以上を占めました。「ご指摘」は102件減少(前年比約16%)し全体で517件となり、うち478件はSSに関連するご指摘でした。一方、「お礼・お褒めの言葉」も41件お寄せいただき、前年比で約14%増加しました。

**関連情報：お問い合わせ**  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/contact/>  
 フリーダイヤル 0120-530-372

「ご質問」内容の内訳



SSへの「ご指摘」内容の内訳



### カスタマーセンターに寄せられた声

お褒めの言葉

道に迷ってしまい、予定の時間もギリギリで慌てているときに、偶然入ったSSでスタッフの方が地図を持ってきて道案内してくれた。親切な対応をしてもらい本当に嬉しかった。

＜お褒めの言葉に対して運営者より＞SSでは道を聞かれることも多く、地図で対応することを基本としており、近場であれば口頭で道案内をします。このようなお声をいただき大変嬉しく思います。

ご指摘

今日のスタッフは何も聞かずに窓を拭きだしたり、吸い殻やごみ等の処分を頼むと嫌な顔をされたりした。帰り際の挨拶もなく、嫌な気分になった。

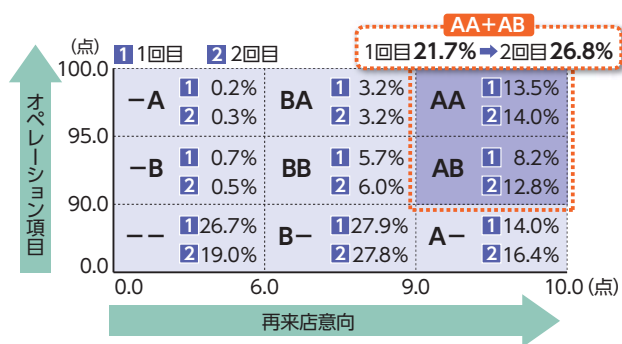
＜ご指摘に対して運営者より＞SSの方針としては丁寧な対応を心掛けていますが、確認したところ今回は事実でした。今後このようなことがないように指導します。

### 覆面モニターによる「3つの約束診断」

お客様との3つの約束、SSにおける「心地良さ」「安心感」「信頼感」が各SS店頭で忠実に実践されているかを確認するため、お客様目線でチェックするモニター調査を年2回実施し、お客様の満足度の確認と向上に努めています。(実施SS数：1回目1,414、2回目1,326)

調査は、業務が適切に行われているかを確認する「オペレーション項目」と、お客様がまた来たくなるかを確認する「再来店意向」の2つの軸を用いて行い、診断結果は、より良いSSづくりを行うための各種研修に反映させています。

2014年度「ココロも満タんに」宣言3つの約束診断結果の比較



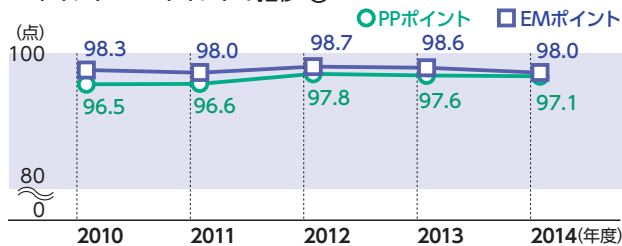
### SSにおける「CSR診断」

SSを取り巻くさまざまな法令の遵守状況等を確認するため、個人情報保護法(PP)調査や環境管理(EM)調査などのCSR診断を毎年実施し、改善を図っています。

2014年度は1,338SSに調査員が訪問して調査しました。また、その他1,600を超えるSSが自己診断を行いました。

**関連情報：情報管理**  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/customer.html>

PPポイント・EMポイントの推移



※ ポイントが高いほど評価も高くなります。

# 人権／人事施策の充実

## 人権尊重・働きやすい職場づくり

「連結中期人権／人事計画(2013年度～2017年度)」では、「業務の効率化と労働時間の適正管理」「ワーク・ライフ・バランス」「多様性の尊重」「心身の健康維持・向上」「パワハラ・セクハラ撲滅」の5項目をテーマに掲げ、コスモ石油グループ社員がより働きやすい職場になるように取り組んでいます。

 **詳細情報：連結中期人権／人事計画の詳細**  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/social/employee.html>

## グローバル人材の育成

コスモ石油グループ社員は、世界8カ国、125名が海外に駐在しています。「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」をめざすコスモ石油グループにとって、国内外のさまざまな案件に対応できる人材の育成は急務です。多様な経験・スキルを持ったグローバル人材を育成するため、若手・中堅社員の海外事業所派遣はもちろんのこと、近年は海外留学も実施しており、昨年度は2名の海外留学生を派遣し、2015年度も新規に1名の派遣が決定しています。また、新潟にある国際大学にも継続的に留学生を派遣しています。これからも多様な経験・スキルを持ったグローバル人材を育成するため、継続的に海外事業所への若手・中堅社員の派遣や海外留学生の派遣を続けていく方針です。

### 2014年度 国別海外駐在者数

2015年3月31日現在

国	駐在者数
UAE	88名
バーレーン	1名
カタール	14名
中国	3名
米国	3名
イギリス	1名
シンガポール	8名
韓国	7名

※ 駐在者数は、コスモ石油出向者とコスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス、コスモ総合研究所、コスモエネルギー開発のプロパー社員を足したものです。

### 2010年度～2014年度 海外駐在者数の推移

年度	海外駐在者数
2010年度	91名
2011年度	89名
2012年度	94名
2013年度	104名
2014年度	125名

### 2014年度 留学人数

2015年3月31日現在

国	留学人数
日本	2名
米国	2名

## スキルマネジメント

コスモ石油は、自ら気づき、周囲に働きかけ成長を追求する「自立型人材」の育成を目的とした階層別研修やOJT等の育成体系を運用してきました。2015年度は、さらなる女性活躍推進を目的として、元一般職\*社員全員への研修の実施、ライン長に対してのダイバーシティ研修を実施するなど新たな取り組みをスタートさせました。2015年4月に導入された新人事制度および2015年10月の持株会社体制移行を踏まえ、今後はさらなる人材育成の強化を図っていくため、研修体系や通信教育などの能力開発と要員配置をより連携させ、社員がプロフェッショナルとしてさらに成長し自立することを後押ししたいと考えています。



ライン長を対象としたダイバーシティ研修の様子

### 2014年度 管理職対象研修の実績数

対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

研修名	受講者数	研修時間
全ライン長研修 (評価者訓練、ダイバーシティ研修)	402名	約7時間
新任ライン長研修	30名	約24時間
新任管理職研修	16名	約15時間

### 2014年度 組合員(総合職)対象研修の実績数

対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

研修名	受講者数	研修時間
新3等級研修	47名	約15時間
5年次研修	30名	約15時間
2年次研修	24名	約15時間
新入社員研修	30名	約2ヵ月間

※ このほか、全社員を対象にした通信教育の補助、業務に応じた資格取得補助を実施しています。

\* 2015年度より、コース一元化を行い、一般職制度を廃止しました。

### 多様性の尊重・機会均等

「公正な雇用の継続」をテーマとし、「障がい者雇用率の維持向上」を目標に取り組んでいます。2014年度は1.99%となり、法定雇用率(2.0%以上)は未達成となりましたが、現在新規雇用に向けて準備しています。今後も多様な人材がそれぞれの能力を存分に発揮できる職場環境の構築をめざし、障がい者雇用率の維持向上に努めます。

#### 障がい者雇用(厚生労働省届出値) ㊟

	2011年 6月	2012年 6月	2013年 6月	2014年 6月	2015年 6月
障がい者雇用人数	45名	46名	41名	39名	37名
(内、重度障がい者人数)	23名	23名	21名	20名	18名
障がい者雇用率*	2.1%	2.3%	2.1%	2.07%	1.99%
法定不足人数	0名	0名	0名	0名	1名

\* 法定雇用率2.00% (小数点第2位以下は四捨五入)

※ コスモ石油単体、いずれも6月1日時点

### ワーク・ライフ・バランスの推進

「連結中期人権/人事計画」では、「ワーク・ライフ・バランス」を重点テーマとして、「関係諸制度の利用促進」を実施しています。

例えば夏季休暇など有給休暇の計画的な取得や、記念日休暇(結婚1年目、子どもの1歳の誕生日)などの特別有給休暇の取得を促進しました。また、昨年発足した「コスモプロジェクト」の会社答申\*1より、女性のみならず男性社員の育休取得促進も図る予定で、「第6期一般事業主行動計画(次世代育成支援推進法)\*2」の主な施策として策定します。

\*1 活動内容はP28に掲載

\*2 一般事業主行動計画:労働者の子育て支援策や労働条件の整備策について、期間、目標、実施時期を定めた計画

#### 記念日休暇\*

	2013年度	2014年度
取得対象者	121名	135名
取得人数	49名	63名
取得率	40.5%	46.7%

\* 2013年度より設立。結婚後1年、子どもの1歳の誕生日を記念日とし、所定有給休暇日とは別にそれぞれ1日、2日の特別休暇を付与しています。

#### 育児休業取得者数 ㊟

2015年3月31日現在

	2012年度	2013年度	2014年度
男性	2名	4名	2名
女性	15名	17名	16名

※ 年度をまたいで取得している場合、各年度で取得者が重複しています。

#### 短時間勤務制度利用者数

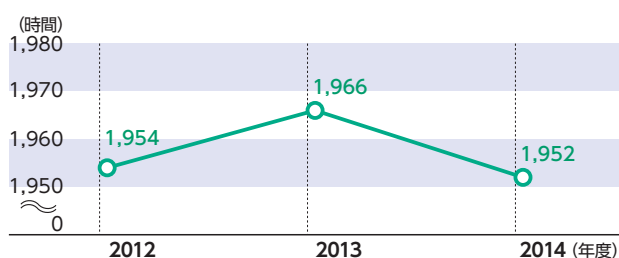
2015年3月31日現在

	2012年度	2013年度	2014年度
男性	0名	1名	1名
女性	8名	9名	14名

### 長時間労働の削減への取り組み

社員の健康を守り、仕事と生活の調和を図ることを目的として、「生産性の向上による、労働時間の適正化」に取り組んでいます。「夜型から朝型へ」働き方を変えることを主眼として、各種制度・人事システムの改変を実施するとともに、労働時間実績を人事評価に反映するなどの取り組みを実施しています。さらに2015年度からは有給休暇のさらなる取得促進のため、期初にあらかじめ有給休暇の取得日を設定する「プリセット休暇」の日数を増やすことで、約8割の有給休暇取得率のさらなる向上に取り組んでいます。

#### 総労働時間の推移



#### 月間時間外労働時間の平均と年間有給休暇の平均取得率

	2012年度	2013年度	2014年度
時間外月平均	22.5時間	23.2時間	22.3時間
有休取得率	83.0%	74.0%	85.0%

\*1 勤続年数に応じ、0年:15日、1年:17日、2年:19日、3年以降:21日を付与しています。

\*2 交替勤務者を除いたコスモ石油社員と出向者を集計しています。

## Topics 2014 「コスモプロジェクト」活動報告

コスモ石油グループでは女性活躍推進策の検討・提言を図るため、2014年1月に部署や環境の異なる女性社員11名で構成された「コスモプロジェクト」を発足しました。コスモプロジェクトでは、発足から7ヵ月間アンケート調査やヒアリング、100時間以上のディスカッションを行い、2014年7月に40項目の女性活躍推進策を最終答申しました。提言を受け会社が対応しているものについて一部を下記に紹介します。今後は後継機関の「ダイバーシティ推進室」が、社員全員がいきいきと働き、活躍し続けることができる環境をめざし活動していきます。



### コスモプロジェクト活動概要

全体ミーティング	41回(分科会含む)
ディスカッション時間	109.5時間
女性社員アンケート実施	回答数263名(対象者284名、回答率92.6%)
女性社員ヒアリング実施	19事業所 約100名(その他男性社員、所属長等多数)

### コスモプロジェクト答申および会社対応について(一部)

施策内容	施策内容解説	会社対応
<b>女性社員が長く働き続けられる会社にするために</b>		
働き続けたいと思える、魅力的な会社であること		<b>13施策</b>
積極的に女性の活躍を後押ししてくれること		
上司のマネジメント研修	部下のキャリアアップや仕事と家庭の両立をサポートし、「効率重視」の観点から評価できるラインマネージャーの育成を期待する。社員がそれぞれ「何をどう頑張ったら良いか」という方向性を的確に示す上司の存在が女性の活躍に必須だと考える	全ライン長を対象に評価者研修ならびに外部講師によるダイバーシティ研修を実施。今後も毎年1回、全ライン長を対象とした研修を開催予定
多様な働き方による会社への貢献が認められること		
効率性を重視する評価制度への移行	育児や介護などで時間に限りのある社員を抱える職場では、長時間労働がもっとも大きな課題であるため、生産性の高い働き方へ促して欲しい	総労働時間に関する目標設定を義務化し、時間外労働の削減およびワーク・ライフ・バランスの推進を図る。2015年度を生産性向上による労働時間適正化の取り組み強化年とし、従来の働き方を変革していく
退職せずに働き続けられる制度があること		<b>14施策</b>
多様な働き方が可能であること		
育児中・介護中の社員の在宅勤務制度適用範囲の拡大	多様な働き方は、在宅勤務の利用拡大によって実現すると考える	在宅勤務を週1回から週2回に拡大
万が一退職を選択しても、再び働く機会があること		
ライフイベントを機会に退職した社員を、再雇用する制度があること		
正社員としての再雇用制度の創設	ライフイベントによる退職を選択した社員に再び活躍してもらうことは、会社・社員ともにメリットのある施策だと考える	育児・介護・配偶者の転勤で仕事を続けられなくなった社員に対し、以下のカムバック制度を創設 ・再雇用制度(育児・介護・配偶者の転勤事由で退職した社員) ・配偶者転勤事由による休職制度
<b>女性社員が能力を発揮する会社にするために</b>		
発揮すべき能力が明確で、能力発揮の機会があること		<b>5施策</b>
成果に対する価値基準が明確で正当な評価・報酬が得られること		<b>2施策</b>
<b>女性の活躍を永続させるために</b>		
女性社員が増加していくこと		
女性社員の安定採用	コスモ石油の女性社員比率は約10%にとどまるが、女性が増え、ロールモデルが増えていくことで、活躍の場が広がると考える	女性採用比率30%以上を目標として設定
女性管理職比率(目標値)の対外発表	女性管理職比率を上げることは、社会的責任でもあり、コスモ石油でも対応していく必要があると考える	女性管理職を2020年までに2014年度の約4倍に増やすことを目標として設定

# 環境対応策の推進

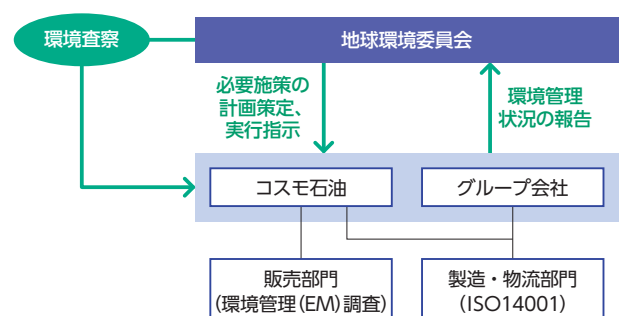
## 環境への取り組み

コスモ石油グループでは、2002年度より環境にスポットをあてた取り組みの強化を開始しました。「連結中期環境計画（2013年度～2017年度）」では、引き続き、「事業継続を踏まえた地球温暖化への戦略的対応」「環境負荷の低減」「環境貢献活動の推進」の3項目をテーマに掲げ、コスモ石油グループの社会へのメッセージスローガン「ずっと地球で暮らそう。」を実現すべく活動しています。

### 環境管理体制

コスモ石油グループでは、環境負荷の大きい事業所を中心に、各製油所を含む10事業所でISO14001認証を取得しています。内部監査を実施するとともに、審査登録機関による外部審査も受け、環境マネジメントシステムが確実に機能しているかどうかを定期的に確認しています。また、部門横断的な組織とした、「地球環境委員会」を中心に環境管理体制を構築し、「地球環境委員会」が連結中期環境計画の立案・実績報告・評価などを実施し、各事業部門にフィードバックしています。

環境管理体制図



### 連結中期環境計画（2013年度～2017年度）

テーマ① 事業継続を踏まえた、地球温暖化防止への対応	テーマ② 環境負荷の低減	テーマ③ 環境貢献活動の推進
(1) CO <sub>2</sub> 削減に向けた取り組み (2017年度目標 2010年度比▲85.3万t-CO <sub>2</sub> ) (2) 温室効果ガスの排出管理 (省エネ法に適合したエネルギー管理)	(1) 事業活動における環境課題への適切な対応 (2) 産業廃棄物の削減 (3) 環境管理における内部監査・外部監査の充実 (4) 土壌環境対応の徹底 (5) エコオフィス活動の推進・グリーン購入の推進	(1) 環境コミュニケーションの継続 (2) 生物多様性保全の推進

### 産業廃棄物の削減

コスモ石油では、2014年度より各製油所・油槽所・中央研究所における産業廃棄物最終処分率の目標を0.5%から0.3%に下げ、廃棄物の削減に継続して取り組んでいます。2014年度は、0.29%と目標を達成することができました。グループ会社においては、各社で目標値を設定しており、CMC、CLC、北斗興業は目標を達成しました。CECは、坂出オイルターミナル化に伴う撤去工事や広川・日高川ウィンドファーム新設工事の実施のため、最終処分率が未達成となりました。

2014年度 産業廃棄物の最終処分率 ④

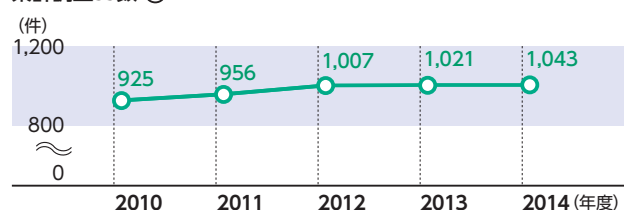
	目標	実績
<b>コスモ石油計</b>	<b>0.3%未満</b>	<b>0.29%</b>
コスモエンジニアリング(CEC)	15%未満	21.45%
コスモ松山石油(CMC)	1%未満	0.05%
コスモ石油ルブリカンツ(CLC)	1%未満	0.25%
北斗興業	1%未満	0.53%

※ コーポレートレポート2015(冊子)発行後に誤りを発見し、コスモ松山石油(CMC)の最終処分率実績を2.54%から0.05%に修正しました。

### 土壌環境対応の徹底

土壌汚染の未然防止と、万が一油分が漏洩した場合の迅速かつ適切な対応のため、コスモ石油グループ内におけるSSや事業所の土壌調査を実施しています。また必要に応じて、環境影響に応じた土壌浄化、モニタリングを実施しています。

累計調査SS数 ④



# 地球温暖化防止への取り組み

## 製造部門の省エネルギー

コスモ石油グループのCO<sub>2</sub>排出量の約6割を占める精製部門では、ハード面(高効率機器の導入)、ソフト面(運転効率の改善)の両面から省エネルギーに努めています。

2014年度は、千葉製油所の生産量が回復したことから、エネルギー消費原単位\*と原油換算処理量あたりのCO<sub>2</sub>排出量の改善に寄与しました。また、坂出製油所の石油精製事業を停止(2013年7月)し、3製油所体制に移行したことから、エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量の削減につながりました。2010年度と比較すると、坂出製油所の石油精製事業の停止や、その他の製油所における省エネ施策により794千t-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。

\* 製油所の総エネルギー消費量を精製技術の複雑度を考慮した原油換算処理量で割った値で、単位は、kl-原油/千klで表します。総エネルギー消費量は、熱や電気などの各種エネルギーの使用量を原油換算し、単位はkl-原油です。

3製油所のエネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量 ㊦



※ 図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)が18千t-CO<sub>2</sub>eq発生しています(2014年度)。

## オフィス部門の省エネルギー

コスモ石油グループでは、オフィスの省エネ・省資源活動として、エコオフィス活動を推進しています。コピー用紙、社有車燃料、オフィス電力の使用量削減、事務用品のグリーン購入の項目に対し、各事業所で実績を把握し、年度目標を達成できるよう、各事業所・関連会社ごとに推進策を展開しています。2014年度はコスモ石油グループ全体で、目標を達成しています。

### 評価基準:

【コピー用紙・社有車燃料・オフィス電力】

○:目標達成 ×:目標未達成

【グリーン購入】○:80%以上 ×:80%未満

2014年度通期 エコオフィス・グリーン購入実績報告 ㊦

取り組み項目	対象範囲	目標	実績	目標比	評価
コピー用紙 (単位:万枚)	コスモ石油	992	894	-9.9%	○
	グループ会社	1,837	1,899	+3.4%	×
	コスモ石油グループ合計	2,829	2,793	-1.3%	○
社有車燃料 (単位:千l)	コスモ石油	218	171	-21.9%	○
	グループ会社	775	656	-15.5%	○
	コスモ石油グループ合計	994	826	-16.9%	○
オフィス電力 (単位:千kWh)	コスモ石油	680	641	-5.7%	○
	グループ会社	1,625	1,463	-10.0%	○
	コスモ石油グループ合計	2,305	2,103	-8.7%	○
グリーン購入 (購入率:%)	コスモ石油	80.0	88.2	+8.2%	○
	グループ会社	80.0	88.7	+8.7%	○
	コスモ石油グループ合計	80.0	88.3	+8.3%	○

## 再生可能エネルギーによるCO<sub>2</sub>排出量削減

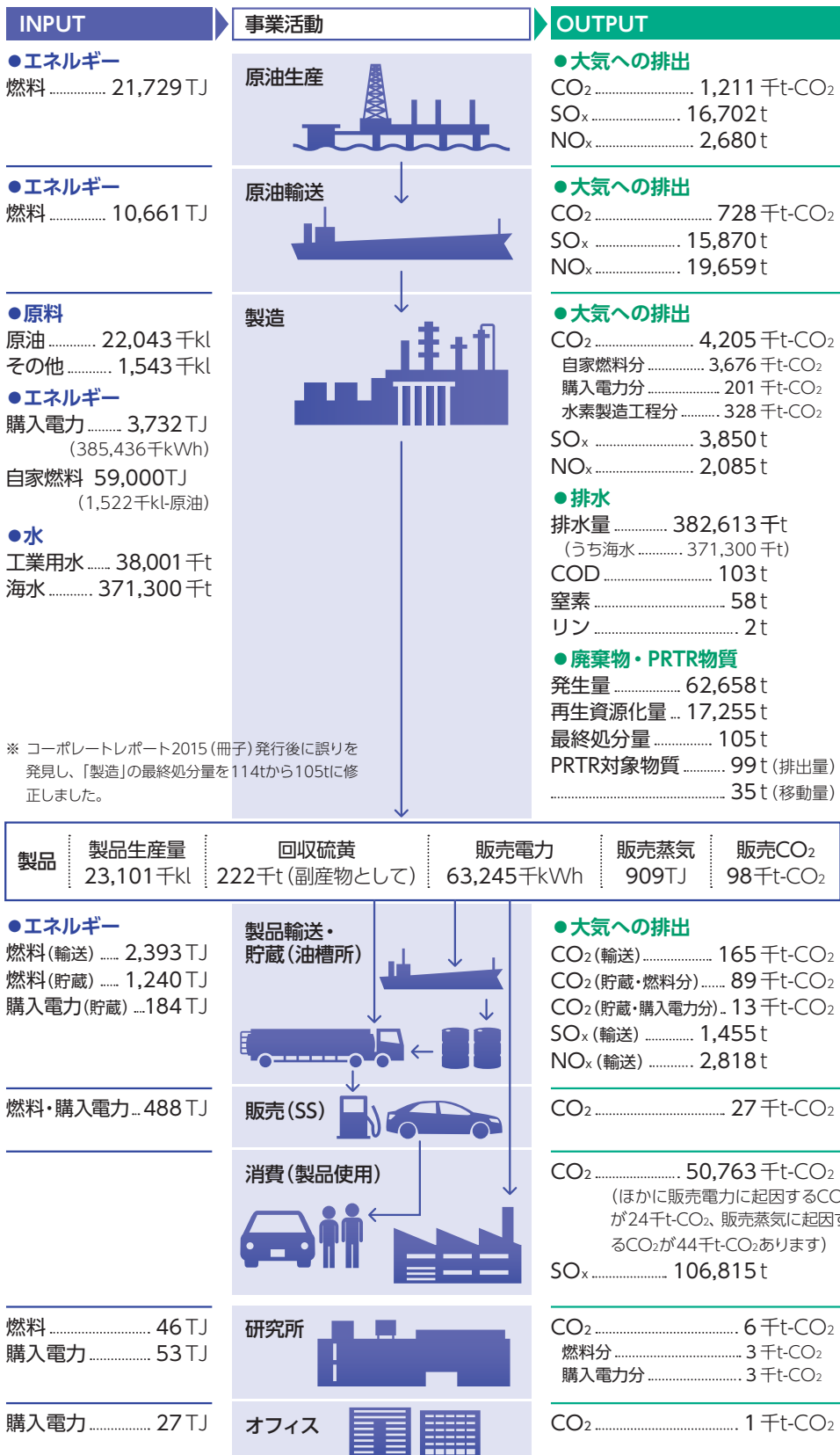
コスモ石油グループでは、風力発電・太陽光発電事業に積極的に取り組み、クリーンなエネルギーの供給に努めています。2014年度は、風力発電設備137基、太陽光発電5サイトが稼働し、総計301,058,150kWhの発電を行い、CO<sub>2</sub>に換算すると、165,883t-CO<sub>2</sub>\*のCO<sub>2</sub>排出量の削減効果となりました。

\* 環境省による「平成25年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等」の代替値(t-CO<sub>2</sub>/kWh) 0.000551 を用いて算定。



## 事業活動における環境負荷

### 2014年度の環境負荷状況



- 「原油生産」「原油輸送」「製品輸送・貯蔵(油槽所)」(SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>のみ)は、(一財)石油エネルギー技術センター(JPEC)の2000年3月「石油製品油種別LCI作成と石油製品環境影響評価」にもとづく推計です。
- 「製造」以降のエネルギー消費量は、エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)の規定にしたがって算定しています。
- 「製造」「製品輸送」「販売SS」(コスモ石油販売(株)のデータ)のCO<sub>2</sub>は、環境省・経済産業省の「温室効果ガス算定・報告マニュアル」にしたがい算定しています。
- 「製造」には、コスモ石油製油所、四日市発電所、コスモ松山石油(株)、コスモ石油リブリカント(株)のデータを含みます。なお、コスモ石油リブリカント(株)の水関連データ、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>は含まれていません。
- 「廃棄物」には、事業活動に伴って発生したもので、有価で売却されたものも含みます。
- 販売電力とは、千葉製油所、コスモ松山石油(株)から外部供給した電力のことです。「製造」からのCO<sub>2</sub>は、この販売電力分のCO<sub>2</sub>を差し引いたものとなっています。逆に購入電力分のCO<sub>2</sub>は「製造」に含んでいます。
- 販売蒸気とは、千葉製油所およびコスモ松山石油(株)から外部供給した蒸気のことです。「製造」からのCO<sub>2</sub>は、この販売蒸気分のCO<sub>2</sub>を差し引いたものとなっています。
- 「製品輸送」のCO<sub>2</sub>は省エネ法で定める特定荷主を対象としています。
- 「消費(製品使用)」のCO<sub>2</sub>では、ガソリンや重油など燃料として使用する製品の出荷量にCO<sub>2</sub>排出係数を乗じて算定しています。ほかに販売電力、販売蒸気に起因するCO<sub>2</sub>を別集計しています。
- 「消費(製品使用)」のSO<sub>x</sub>は参考値です。製品の硫黄分から算定した潜在SO<sub>x</sub>量であり、お客様使用時の脱硫による低減は考慮していませんので、実際のSO<sub>x</sub>排出量はこれより低い数値になります。
- 「研究所」には、コスモ石油(株)の中央研究所およびコスモ石油リブリカント(株)の商品研究所を含みます。
- 「オフィス」には、コスモ石油本社および支店のデータを含みます。
- コスモ石油グループの事業活動におけるScope1は、4,046 千t-CO<sub>2</sub>、Scope2は、297 千t-CO<sub>2</sub>です。

#### 詳細情報

事業所別パフォーマンスデータ  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/site/>

石油ライフサイクルインベントリ(LCI)  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/lca.html>

環境会計  
[http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/ev\\_accounting.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/ev_accounting.html)



# グループ内および社会とのコミュニケーション活動の推進

## 社会とともに進める環境活動

### 「コスモ アースコンシャス アクト」グリーン・キャンペーン

コスモ石油グループは、2001年より開始した地球環境の保護と保全を呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」の一環として、海・山・川などで自然と親しみながら清掃を行う「グリーン・キャンペーン」を全国で展開しています。14年間で、延べ553カ所を清掃し、参加者214,828名の方々にご協力いただき、総量5,824,677リットルのごみを回収しました。毎年夏には「グリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を実施しています。2014年度は富士山の清掃とエコトレッキングを行い、総勢158名で16,695リットルのごみを回収しました。



#### 活動スケジュール・報告

コスモ アースコンシャス アクト(公式サイト)  
<http://www.tfm.co.jp/earth/>

コスモ アースコンシャス アクト(Facebook)  
<http://www.facebook.com/earth.act/>



### コスモ石油エコカード基金

コスモ石油は、石油が人類に恩恵をもたらしてきた一方で、その大量消費が地球環境に負荷を強いてきた事実を忘れずに、「地球環境との調和と共生」を経営理念のひとつに掲げ、環境問題に取り組んでいます。そのなかでも、2002年にスタートしたコスモ石油エコカード基金は、エコカード会員の皆様から毎年お預かりする500円の寄付金とコスモ石油グループの売上の一部などをもとに、環境活動に取り組むNPOなどを支援しています。

2014年度は、約7万人の会員の皆様からの寄付金、合計35,373,500円をお預かりし、コスモ石油グループからの寄付金49,891,209円を合わせ、地球温暖化による海面上昇問題に直面しているツバルやキリバス共和国でのマングローブ植林活動など、国内外14のプロジェクトを支援しました。

#### コスモ石油 エコカード基金

ずっと地球で暮らそう。



関連情報: コスモ石油エコカード基金活動報告書2015  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/company/publish/ecoreport/index.html>

### 「コスモの森」里山保全活動

コスモ石油グループは、事業所周辺の里山を「コスモの森」として自治体より借り受け、里山を整備・保全し、次世代に残す活動に取り組んでいます。堺製油所とコスモ松山石油(株)では、コスモ石油社員とその家族が参加して活動をしており、千葉製油所では、里山保全活動に加えて、地元子どもたちを対象にした活動を年間を通じて実施しています。



### 国連グローバル・コンパクトへの参加

コスモ石油グループは、国連が提唱するグローバル・コンパクトに2006年から参加しており、人権・労働・環境・腐敗防止にかかわる10原則を支持することによって、国際的な視点を採り入れ、CSR経営を推進する企業姿勢を社会に対しコミットし、CSR活動のさらなる向上をめざしています。



人権	原則 1：人権擁護の支持と尊重 原則 2：人権侵害への非加担
労働	原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化 原則 4：強制労働の排除 原則 5：児童労働の実効的な排除 原則 6：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則 7：環境問題の予防的アプローチ 原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則 10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

### 諸外国との技術交流を実施

コスモ石油海外技術協力センターは、産油国と技術協力事業ならびに研修事業を中心とした技術交流を通して友好関係の維持・発展に努め、相手国から高い評価をいただいています。なお、事業の実施に際しては、(一財)国際石油交流センター(JCCP)などの補助金制度も活用しています。

2014年度の主な活動としては、JCCPの「産油国石油産業等基盤整備事業」に参加し、UAE、エクアドル、オマーンの3カ国にて技術協力事業を実施しました。研修事業に関しては、UAE、カタール、エクアドルの3カ国7機関に対し、受入5件、派遣2件の研修を実施しました。その他JCCP直轄研修において受入研修で6件の講義、派遣研修1件を引き受けました。

#### 2014年度 技術協力事業一覧

国名	事業内容	実施回数
UAE	ADNOCグループにおける海域環境保全強化に向けた調査(Phase II)	1件
エクアドル	SSの土壌汚染改善に関する支援調査事業	1件
オマーン	製油所の環境対応設備および運転改善に関する共同事業	1件
		合計 3件

#### 2014年度 海外技術協力 研修事業一覧 ㊦

	国名	研修内容	研修回数
受入研修	UAE	省エネルギー・環境技術、石油精製技術、石油製品品質管理技術	3件
	カタール	省エネルギー・環境・新エネルギー技術、上級管理職候補研修	2件
派遣研修	UAE	省エネルギー・リスクマネジメント・安全管理と環境マネジメント	1件
	エクアドル	国際石油市場	1件
			合計 5件
			合計 2件

### 主な社会貢献活動

コスモ石油は、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」にもとづき、「未来の社会をつくる子どもたちの啓発」「地球環境の保全」「文化的社会の構築」をコンセプトとしてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

毎年夏に開催している、交通遺児の小学生を対象とした2泊3日の自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」は、1993年にスタートした代表的な活動です。2014年度は山梨県都留市の「宝の山ふれあいの里」にて実施、38名の交通遺児の小学生が参加しました。



「コスモわくわく探検隊」夕食の様子

#### 2014年度 社会貢献活動一覧

主催プログラム	活動内容	開催日
第22回コスモわくわく探検隊	交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム	2014年8月7日～8月9日(2泊3日)
コスモクリスマスカード・プロジェクト 2014	入院中の子どもたちにメッセージをそえたクリスマスカードを贈るプロジェクト	2014年11月～12月
Jazz Night@魚籃寺チャリティ・ジャズ・コンサート	入院中の子どもに付きそう家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」を支援するチャリティ・コンサート	2014年9月5日
コスモ絵かきっず	児童養護施設で実施するグループ社員による手作りワークショップ	2014年11月30日
ミライひろげる・コスモ理科実験教室	石油精製の仕組みを実験を通して伝える中高生対象のプログラム	2015年3月12日
ハッピードール・プロジェクト	入院中の子どもたちと人形づくりをするプロジェクト	2015年1月20日、2月6日
献血活動	社員による献血活動(コスモ石油本社ほか、各事業所にて実施)	2014年9月17日、2015年2月10日

関連情報：社会貢献活動  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/phil/index.html>

# 第三者保証報告



## 独立した第三者保証報告書

2015年7月2日

コスモ石油株式会社  
代表取締役社長 森川 桂造 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社  
東京都千代田区大手町1丁目9番5号

代表取締役 

当社は、コスモ石油株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社を作成しコーポレートレポート2015(以下、「コーポレートレポート」という。)に記載されている2014年4月1日から2015年3月31日までの対象とした<sup>①</sup>マークの付されている環境・社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

### 会社の責任

環境省の環境報告ガイドライン2012年版及びGlobal Reporting Initiativeのサステナビリティ・レポート・ガイドライン(G4)等を参考にして会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。コーポレートレポートに記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

### 当社の責任

当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準(ISAE)3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(2003年12月改訂)、ISAE3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」(2012年6月)及びサステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針(2012年12月改訂)に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主としてコーポレートレポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- コーポレートレポートの作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法及び内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定したコスモ石油株式会社における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

### 結論

上述の保証手続の結果、コーポレートレポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

### 当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以上

## 第三者保証業務を終えて

コスモ石油グループは、2015年10月から、資源開発事業、供給事業、販売事業の3つの事業会社を中心とした持株会社体制に移行されます。本レポートでは、それを先取りし、石油資源開発事業、供給事業、販売事業、再生可能エネルギー事業のそれぞれの中核事業の取り組みが紹介されており、コスモ石油グループの全体像がわかりやすく説明されていると考えます。再生可能エネルギー事業に関しては、風力発電と太陽光発電による発電量とそれによるCO<sub>2</sub>削減量が示されており、再生可能エネルギー事業が社会に与えるポジティブなインパクトの規模が定量的に示されています。

現在、コーポレートレポートは、第5次連結中期経営計画にもとづくCSR活動方針(2013年度から2017年度)の

「重点項目」に沿って構成されており、理解しやすいと考えますが、そこで掲げられている課題に対応することがどうしてコスモ石油グループにとって重要であるかということについてもう一段詳しい説明があったほうが、さらにわかりやすいレポートになるのではないかと考えます。その意味で、重要課題(マテリアリティ)の見直しを、次期のCSR活動方針の策定の前のどこかの段階で行われてはどうかと考えます。

KPMGあずさサステナビリティ株式会社  
赤坂 真一郎



コーポレートレポート2015の制作にあたり、  
以下の配慮を行っています。



カラーユニバーサルデザイン認証  
の取得  
色覚の個人差を問わず、できるだけ多く  
の方に美しく見やすい表示を心がけまし  
た。NPO法人カラーユニバーサル機構  
(CUDO)から認証を取得しています。

